

KENWOOD

デュアルサイズ MD/CDレシーバー

DPX-7021MPi

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございます。
ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、
説明の通り正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

使いこなし!
ファンクショナルオペレーション

Functional Operation

ここさえ読めばひとまずOK!
イージーオペレーション

EZ Operation



Help ? Operation
? MP3
? Word

© B64-1961-00 (十)

この製品は、ドルビーラボラトリーズライセンスिंगコーポレーションの米国および外国特許に基づく許諾製品です。

KENWOOD

株式会社 ケンウッド
〒150-8501 東京都渋谷区道玄坂1-14-6

- 商品に関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンターをご利用ください。
カスタマーサポートセンター (東京) 電話(03)3477-5335 FAX(03)3477-5334 〒153-0042 東京都目黒区青葉台3-17-9
(大阪) 電話(06)6394-8085 FAX(06)6394-8308 〒532-0034 大阪市淀川区野中北2-1-22
受付時間 9:00~18:00 (土、日、祝祭日および当社休日は休ませていただきます)
- アフターサービスについては、お買い上げの販売店か、または、別紙「ケンウッド全国サービス網」をご参照のうえ、
最寄りのサービスステーション、サービスセンター、各営業所にご相談ください。

Functional Operation

Source Selection/Clock Control
MD/CD Mode
MP3 Mode
Tuner Mode
Name Set
Display Control
DSP Control
Equalizer Control
Audio Control
Function Set

EZ Operation

Options

Remote Control

Help

Contents

ここを読まなければ操作できない！
この取扱説明書を読むルールが書いてあります。

本書の読みかた

本書の読みかた4

安全上のご注意6

使用上のご注意8

CDとMDの取り扱い12

ここさえ読めばひとまずOK！
イージーオペレーション

EZ Operation

MD、CD、FM/AM放送、交通情報の聴きかた ...14

リモコンでも操作できるゾ！

Remote Control

Remote Control56

Common Operation

MD/CD/MP3 Operation

Tuner Operation

SNPS/DNPS Operation

電池の入れかた

思ったとおりに動作しなかったとき
わからない用語が出てきたら...
困ったときのお助けページ！

Help ? Operation ? MP3 ? Word

Help? Operation60

Help? MP367

Help? Word70

付録

Appendices

保証とアフターサービス74

仕様一覧75

使いこなし！ ファンクショナルオペレーション

Functional Operation

Source Selection16
ソース選択

Clock Control17
時刻合わせ

MD/CD Mode18
トラックサーチ
マニュアルサーチ
ポーズ
タイトル/テキストスクロール
プレイモード選択

MP3 Mode20
MP3 ファイルプレイ
ポーズ
ファイルサーチ
フォルダサーチ
マニュアルサーチ
ネーム/ID3スクロール
フォルダセレクト
プレイモード選択

Tuner Mode24
バンド切り替え
チューニング
プリセットチューニング
オートメモリー
マニュアルメモリー

Name Set26
DNPS (ディスクネームプリセット) /
SNPS (ステーションネームプリセット)
AUXネームセレクト

Display Control28
ディスプレイ表示切り替え
スベアナの切り替え
操作パネル角度調節
イルミカラーコントロール
イルミユーザーカラー設定

DSP Control32
DSPシステム
DSPの設定
DSPプリセット
DSPプリセットコール

Equalizer Control36

イコライザーカーブの選択
イコライザーカーブの調節
イコライザープリセット
イコライザープリセットコール

Audio Control38
オーディオコントロール
クロスオーバープリセット
クロスオーバープリセットコール
交通情報音量設定

Function Set42
ファンクションセット
セキュリティコード

オプションも使いこなそう！ オプションズ

Options

External Disc Control46
ディスクサーチ
トラックサーチ
マニュアルサーチ
ポーズ
タイトル/テキストスクロール
プレイモード選択

Telephone Control (CA+HF100/200接続時)48
ハンズフリーで電話をかける
ハンズフリーで電話を受ける
プライバシー通話
着信音量の調節
受話音量の調節
ダイレクトダイヤルメモリー
携帯電話メモリー読み込み
メモリーダイヤル消去

Hands-free call Control (CA+HF300接続時)54
電話をかける
電話を受ける
受話音量の調節

Source Selection/Clock Control

MD/CD Mode

MP3 Mode

Tuner Mode

Name Set

Display Control

DSP Control

Equalizer Control

Audio Control

Function Set

EZ Operation

Options

Remote Control

Help

4

安全上のご注意

製品を安全にご使用いただくため「安全上のご注意」
をご使用の前によくお読みください。

絵表示について：

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為にいろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容を示しています。

絵表示の例



注意

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。近傍に具体的な注意内容が描かれています。



禁止

○記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



実施

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。近傍に具体的な指示内容が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

交通事故の発生を防ぐため、必ず以下の事項をお守りください。



警告



実施

運転者が以下のような行為をするときは、必ず、安全な場所に車を停車させてから、行ってください。

- カーオーディオの操作（音量調節、ディスクやカセットの挿入・取り出し など）
- 電話機および本機の発信・着信の操作



実施

運転中の音量は、車外の音が聞こえる程度でご使用ください。



実施

通話中は車の運転に集中できず前方が不注意となります。

通話は安全な場所に停車してから行ってください。



以下のような異常があった場合は、直ちに使用を中止し、購入店、ケンウッドサービスセンター、または営業所へご相談ください。そのまま使用すると、火災その他の事故の原因となります。

- 音が出ない
- ディスプレイが表示されない
- 異物が入った
- 水がかかった
- 煙が出る
- 変な匂いがする



禁止

修理は必ず購入店、ケンウッドサービスセンター、または営業所にご依頼ください。お客様による修理は、火災その他の事故の原因となります。



禁止

製品の分解や改造はしないでください。火災その他の事故の原因となります。

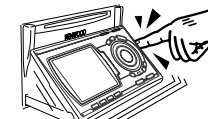


注意



禁止

操作パネル部の開閉中には、手や指を近づけないでください。挟まれてケガをすることがあります。



禁止

カセットテープ挿入口やディスク挿入口に手や指を入れないでください。ケガをすることがあります。



禁止

本製品内に水や異物を入れないでください。発煙、発火、感電の原因となります。



禁止

製品は、車載用以外としての用途では使用しないでください。



禁止

本製品に、強い衝撃を与えないようにしてください。ガラス部品を使用しているため、割れてケガをするおそれがあります。

使用上のご注意

本機に接続する ディスクチェンジャーについて

KDC-C510, KDC-C410, KDC-C406, KDC-C310, KDC-C306, KDC-C210, KDC-C206, KMD-C30,またはRJ-480が接続可能です。これらのディスクチェンジャーの“O-Nスイッチ”は“N”側に設定してください。

別売品のCD/MDチェンジャースイッチングユニット“KCA-S210A”を使用するとディスクチェンジャーを2台まで接続することができます。接続などの詳しい説明はKCA-S210Aに付属の取扱説明書をご覧ください。

本機のDNPS機能はCDチェンジャーに内蔵の記憶機能を使用するのではなく本機内部の記憶機能を使用します。このため、CDチェンジャーに記載されているDNPS可能枚数とは関係なく、すべてのCDの合計で50枚まで記憶することができます。

上記以外のケンウッド製ディスクチェンジャー、および他社製のディスクチェンジャーは、本機に接続することはできません。接続すると破損や故障の原因となります。

接続している機種により、使用できる機能や表示できる情報が異なる場合があります。

携帯電話を本機に接続する前に

本機に携帯電話を接続する前に、携帯電話の以下の設定をオフにしてください。

- ボタン操作確認音（“ピッ”音）
- 携帯電話本体にメッセージを記憶する留守番電話機能
- ドライブモード機能
- マナーモード機能
- 自動着信機能

また、携帯電話を接続したまま本機をバッテリーの電源から外すと、本機の故障の原因となります。バッテリーを交換するときなどは、本機から携帯電話を外してください。

携帯電話をCA-HF100/HF200 で接続したときは

本機に別売品の“CA-HF100”または“CA-HF200”を使用して携帯電話を接続すると、ハンズフリー通話や本機から携帯電話のコントロールが可能となります。

CA-HF100/HF200で接続できる携帯電話の機種はカタログをご覧ください（接続・使用可能な携帯電話の中にも、機種により一部不適切な表示や動作をする場合があります）。なお、改造などを施した携帯電話では使用できないことがあります。

● 本機への携帯電話接続手順

1. 本機の電源をオンにする。
2. 携帯電話の電源をオフにする。
3. 携帯電話の外部接続端子をCA-HF100/HF200に接続する。

本機は上記以外の手順で携帯電話を接続しても、接続されていると認識できません。正しく接続されると本機のインジケーターが点灯または点滅します。

● 携帯電話を接続すると、携帯電話の電源は自動的にオンになります。本機の電源がオンのときは、接続している携帯電話をオフにすることはできません。

また、本機と接続されている携帯電話とは常に通信状態にあるため、携帯電話の電池の消費が通常より多くなります。

● なお、CA-HF100/HF200は携帯電話に電源を供給しておりません。

● 携帯電話のインターネット機能やメール機能を使用するときは、携帯電話をCA-HF100/HF200から取り外してください。CA-HF100/HF200に携帯電話を接続したままでは、これらの機能が正常に動作しない場合があります。

● 携帯電話のメモリーダイヤルを本機に読み込んでいないと、ハンズフリー機能を使用して電話をかけることはできません。この状態のとき、インジケーターが点滅します。メモリーダイヤルを本機に読み込むとインジケーターは点灯に変わります。（メモリーダイヤルの読み込み方法は52ページを参照してください）

● なお、読み込んだメモリーダイヤルは、携帯電話をはずしても本機に記憶されています。

● 携帯電話のメモリーダイヤルを本機に読み込むときは、携帯電話の電源が途中で切れないようにフル充電をして、本機の電源も読み込み中に切らないようにしてください。読み込み中に電源が切れると本機のダイヤルメモリー内容はすべて消去されます。

● 携帯電話のメモリーダイヤルを読み込み中は本機の操作はしないでください。携帯電話も着信以外の操作はしないでください。

● また、読み込み中に着信したときは通話が終了後に読み込み動作が自動的に再開されます。この場合、指定した番号からすべて読み込み直します。

● 携帯電話より読み込んだ電話番号は、リセットボタンを押したり、本機をバッテリーから外すと消去されます。このようなときは携帯電話より電話番号を再度読み込んでください。

● 本機のハンズフリー通話機能では、割り込み通話や三者通話を利用できません。このような通話をするときは、携帯電話をCA-HF100/HF200から取り外してから、携帯電話で操作してください。

● 接続している携帯電話によっては、本機から電話をかけた場合に、携帯電話の発信履歴に電話番号が記憶されない場合があります。

携帯電話をCA-HF300で 接続したときは

● 携帯電話の着信音量と受話音量は、最大に設定してください。

● 「ファンクションセット」（42ページ）の“TEL”項目を“Plug”に設定してから使用してください。“BUS”の設定のままでは正しく動作しません。

● CA-HF300を使用して接続した場合、本機のディスプレイでは携帯電話の通信状態（通話中・切断中など）が分かりません。通信状態を把握するため、携帯電話は運転席から見られる場所に設置してください。

● ハンズフリー通話中は、携帯電話の充電器は使用しないでください。雑音が出たり、誤動作を起こすことがあります。

● 通話中に携帯電話をCA-HF300から外したり接続しないでください。雑音が出る場合があります。

● 通話中にイグニッションキーを“START”位置にすると、通話が切れることがあります。

ハンズフリー通話機能について

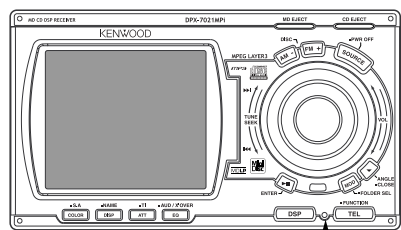
● 携帯電話の電波受信レベルが低いときや、車の走行ノイズが大きいときは、通話している双方ともに相手の音声聞き取りづらくなる場合があります。

● 受話音声はフロントスピーカーおよびフロントブリアウトの、右チャンネルまたは左チャンネルより出力されます。

使用上のご注意

セットの異常にお気づきのときは

本機の異常にお気づきのときは、まずHelp(p.58)を参照して解決方法がないかお調べください。解決方法が見つからないときは、本機のリセットボタンをペン先などで押してください。



リセットボタン

リセットボタンを押しても正常に戻らないときや、下記のような場合は、本機の電源をオフにして、購入店またはお近くのケンウッドサービスセンターへ相談してください。

- MDやCDが取り出せない。
- MDやCDを正しく入れ直してもボタンやインジケータの点滅が続く。
- ディスクチェンジャーを接続しているのにディスクチェンジャーモードにならずに“AUX1”と表示される。

● 操作パネルがスライドした状態のときに異常が起り閉じられない場合は、操作パネルの上部を引き上げながら下部を押すことにより手動で閉めることができます。

セットのお手入れについて

本機の前面パネルが汚れたときは、シリコンクロスか柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性のクリーナーをいったん布に付けてから汚れを落とし、その後洗剤を拭き取ってください。スプレー式のクリーナーなどを直接本機に吹きかけると、本機の機構部品に支障を与えたり、固い布やシンナー、アルコールなどの揮発性のもので拭くと、傷が付いたり文字が消えることがあります。

レンズクリーナーについて

レンズクリーナーは使用しないでください。光学系部品に損傷を与えたり、イジェクトができなくなるなど、故障の原因になる場合があります。

温度について

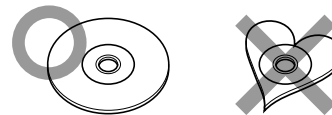
直射日光下で窓を閉めきっていると、自動車内は非常に高温になります。本機内部が60℃を越える高温になると、保護回路が働いてMDやCDの演奏ができなくなります。このようなときは、車内の温度を下げてください。保護回路機能が解除され、演奏ができる状態になります。もし正常に動作しないときはリセットボタンを押してください。

結露について


寒いときにヒーターを付けた直後など、本機の内面に露（水滴）が付くことがあります。これを結露といい、この状態ではMDやCDの読み取りができなくなります。このようなときは、MDやCDを取り出して約1時間ほど放置すると、結露が取り除かれます。もし、何時間たっても正常に作動しない場合は、購入店またはケンウッドサービスセンターへ連絡してください。

使用できないCD

特殊な形状のCDは使用できません。必ず円形のものをご使用ください。円形以外のCDを使用すると故障の原因になります。



● 記録面（レーベル面の反対側）が着色してあるものや汚れているCDは引き込まない、取り出せないなどの誤動作をすることがあります。

●  マークの付いていないCDは使用しないでください。

● ファイナライズ処理を行っていないCD-RおよびCD-RWは再生できません。（ファイナライズ処理については、お使いのCD-R/CD-RWライティングソフトやCD-R/CD-RWレコーダーの説明書をご覧ください）このほかにもCD-RやCD-RWで記録されたCDは、記録状態により再生できない場合があります。

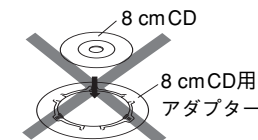
● レーベル面にシールの貼ってあるCDを使用すると、CDが変形したり、シールがはがれることがあります。本機の故障の原因となることもあるため、レーベル面にシールの貼ってあるCDは使用しないでください。

CD用アクセサリについて

音質向上やディスク保護を目的としたディスク用アクセサリ（スタビライザー、保護シート、レンズクリーナーなど）は故障の原因となりますので使用しないでください。



● 8cmCDはアダプターは使用せず、そのまま挿入してください。8cmCDアダプターを使用するとはディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因になります。また、接続するCDチェンジャーで8cmCDを使用する場合は別売の8cmCD用マガジンをご使用ください。



データ用のMDについて

データ用のMDは使用できません。音楽用のMDを使用してください。

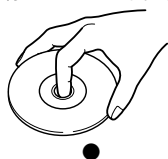
ラベルのはがれかかったMDは

ラベルのはがれかかったMDは使用しないでください。ラベルが浮いていたり、はがれかかっているMDを使用すると、本機の中ではがれて取り出せなくなるなど故障の原因となります。

CDとMDの取り扱い

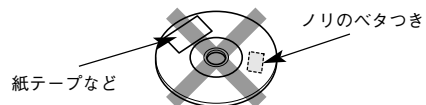
CDの取り扱いについて

CDの汚れや、ゴミ、キズ、反りなどが、音飛びなどの誤動作や、音質劣化の原因になることがあります。取り扱いは記録面に触れないようにしてください。(レーベルが印刷されていない面が記録面です。)



CD-RやCD-RWは通常の音楽CDより反射膜が弱いので、傷が付くことなどにより、はがれることがあります。また、指紋による音飛びにも弱いメディアです。取り扱いには十分注意をしてください。詳細な注意事項がCD-RおよびCD-RWのパッケージなどにも書かれています。それらの注意事項も読んでから使用してください。

記録面や、レーベルが印刷されている面に紙テープなどを貼らないでください。CDにセロハンテープやレンタルCDのラベルなどのノリがはみ出したり、はがした痕があるものはお使いにならないでください。そのままCDプレーヤーにかけるとCDが取り出せなくなったり、故障することがあります。



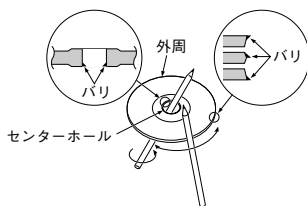
CDの保存

直射日光が当たる場所(シートやダッシュボードの上)など、温度が高い場所には置かないでください。特にCD-R、CD-RWは通常の音楽CDに比べ、高温、多湿の環境に弱く、ディスクによっては車内に長時間放置すると使用できなくなる場合があります。

長期間演奏しないときは、本機からCDを取り出して、ケースに入れて保管してください。キズ、汚れ、反りの原因になりますので、ケースに入れずに重ねて置いたり、斜めに立てかけて保存しないでください。

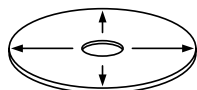
新しいCDを使うときは

新しいCDを使うときは、CDのセンターホールや外周部に“バリ”がないことを確認してください。“バリ”がついたまま使用すると、CDが挿入できなかったり音飛びの原因になります。“バリ”があるときは、ボールペンなどで取り除いてから使用してください。



CDのお手入れ

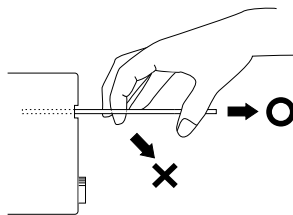
CDが汚れたときは、市販のクリーニングクロスや柔らかい木綿の布などで、中心から外側に向かって軽くふき取ってください。従来のレコードクリーナー、静電防止剤や、シンナーやベンジンなどの薬品は絶対に使用しないでください。



CDの取り出し方

本機からCDを取り出すときは水平方向に引き出してください。

下側に強く押しながら引き出すとCDの記録面に傷を付ける原因となります。



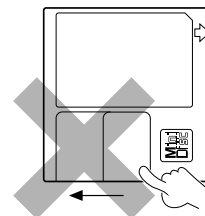
MDのお手入れ

カートリッジ表面の汚れや、ゴミは乾いた布でふき取ってから使用してください。特に油汚れが付いた状態で使用すると、ディスクがローディングされなかったり、取り出せなくなることがあります。また、お手入れされるときは、シャッターを開かないようご注意ください。

MDのシャッターについて

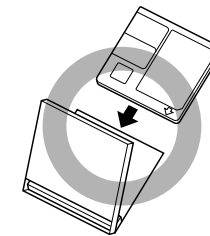
MDのシャッターは開けられないようになっています。無理に開けるとカートリッジが破損して使用できなくなります。

シャッターが何らかの原因で開いてしまったときには、記録部分を指で触らないようにしてください。記録部分に触れると使用できなくなったり、音飛びを頻繁に起こすようになります。



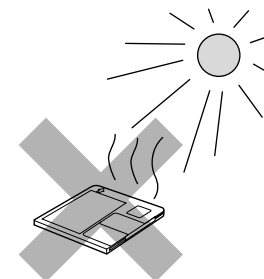
保管について

MDを長時間本機に入れたままにしないでください。また、取り出したMDは、MD専用ケースに入れて保管してください。



高温に注意

MDを直射日光の当たる場所(ダッシュボードの上など)など温度が高くなるような場所に放置しないでください。MDのカートリッジが変形して使用できなくなります。



ディスクのプレイは簡単！ ディスクを差し込むだけです。



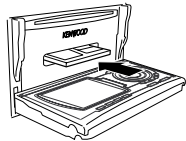
MDをプレイするときは…

MD EJECT を押して操作パネルをスライドさせ、プレイするMDを差し込みます。MDが引き込まれ、パネルが開きます。MDLPで録音されたMDも差し込めばプレイできます。プレイ中のMDがLP2モードのときは“MDLP 2”インジケーター、LP4モードのときは“MDLP 4”インジケーターが点灯します。



MDを取り出すときは…

MD EJECT を押します。操作パネルがスライドして、MDがイジェクトされます。もう一度 **MD EJECT** を押すとパネルは閉じます。



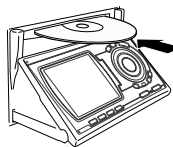
CDをプレイするときは…

CD EJECT を押して操作パネルをスライドさせ、プレイするCDを差し込みます。CDが引き込まれ、パネルが開きます。MP3ファイルが収録されたCDも同様の操作でプレイすることができます。くわしくは「MP3 Mode」(20ページ)をご覧ください。



CDを取り出すときは…

CD EJECT を押します。操作パネルがスライドして、CDがイジェクトされます。もう一度 **CD EJECT** を押すとパネルは閉じます。



電源をオン/オフします。

押すと電源がオンになります。
1秒以上押すと、電源がオフになります。



MD/CDのプレイとFM/AM放送を切り替えます。

ディスクが入っているときに押すと、FM/AM放送、MD、CD、ALL OFFが切り替わります。MDが入っているときは **FM** インジケーターが点灯し、CDが入っているときは **CD** インジケーターが点灯します。



FM放送のバンド (FM1 /FM2) に切り替えます。

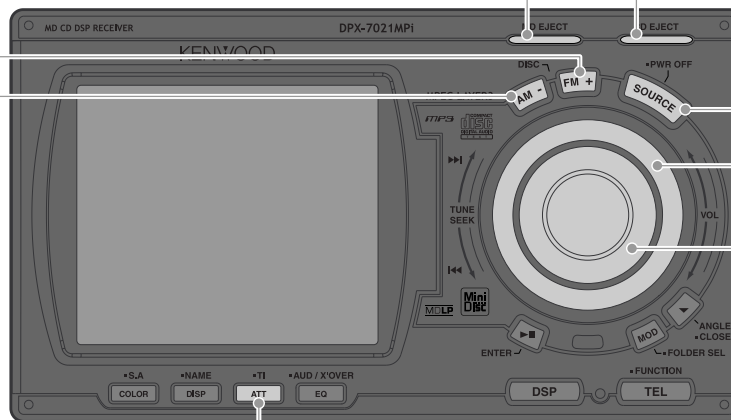


AM放送のバンド (AM1 /AM2) に切り替えます。



注意

- 安全のため、周囲の音が聞こえる音量でお聴きください。
- 操作パネルを開いたときにシフトレバーなどに干渉する場合は、安全に注意してシフトレバーを動かしてください。
- MDのイジェクト状態 (パネルが水平にスライドした状態) で可能な操作は、ディスクの挿入、イジェクト、音量、ソース選択、ハンズフリー受信などだけです。
- スライドさせたパネルに無理な力を加えないでください。
- CDがイジェクトされないときは、CDが出るまで **CD EJECT** を押し続けてください。



音量を素早く下げます。

もう一度押すと元の音量に戻ります。



1秒以上押すと、交通情報を受信します。

もう一度、1秒以上押すと元に戻ります。



プレイする曲を選びます。

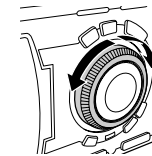


交通情報の周波数を選びます。



受信する放送局を選びます。

受信状態の良い放送局を自動的に受信します。
チューニングモードの設定により、周波数を1ステップずつ変えたり、メモリーしている放送局を順に受信するようにもできます。(42ページ)



音量を下げます。

音量を上げます。
収納・突出します。

Source Selection/Clock Control

MD/CD Mode

MP3 Mode

Tuner Mode

Name Set

Display Control

DSP Control

Equalizer Control

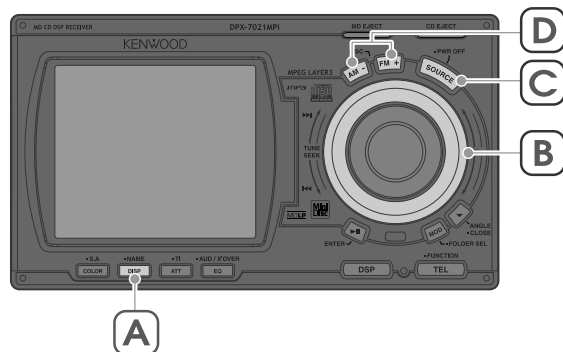
Audio Control

Function Set

Options

Remote Control

Help



プレイするソースを選びます。
また、時計表示の時刻調整をします。

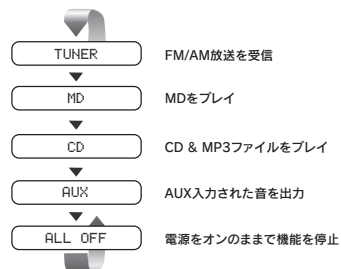
ソース選択

プレイするソースを切り替えます。

C



押すたびに次の順で切り替わります。



⚠ AUXソースには「ファンクションセット」(42ページ)の“AUX”項目が“On”に設定されているときに切り替わります。

別売品のユニットが接続されているときには、次の順で切り替わります。



⚠ 別売品のKCA-S210AまたはCA-C1AXに入力したAUXソースは、次のように選択できます。
KCA-S210A: “AUX1” 表示を選ぶ。
CA-C1AX: “DISC-CH” 表示を選ぶ。
(確定後に“Aux mode”表示になります)

時刻合わせ

時計表示の時刻を合わせます。

1 ALL OFFモードにします

C



ALL OFF

2 時刻合わせを開始します

A



Clock Adjust

“Clock Adjust” と表示されるまで押し続けます。

3 “時” を合わせます

D



4 “分” を合わせます

B

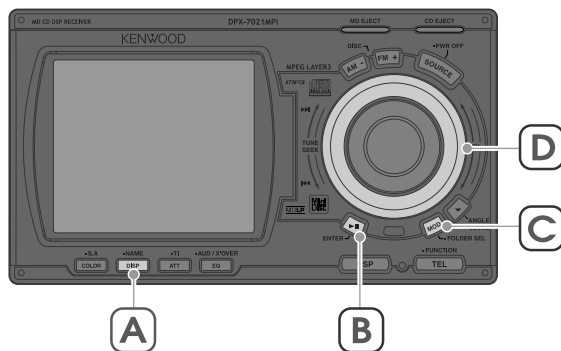


5 時刻合わせを終了します

A



分を調整したときは、00秒からカウントがスタートします。



トラックサーチ

順に曲を選びます。



マニュアルサーチ

現在プレイ中の曲を早送り／早戻しします。



回して止めている間だけ、早送り／早戻しされます。

ポーズ

現在プレイ中の曲を一時停止します



もう一度押すとプレイを再開します。

タイトル/テキストスクロール

AT.SCRL設定が“Off”のときに、タイトル/テキスト表示をスクロールさせます。

1 タイトル/テキスト表示にします



「ディスプレイ表示切り替え」(28ページ)を参照して、ディスク/トラックタイトルまたはディスク/トラックテキストを表示します。

2 スクロール表示します



2秒以上押し、ディスク/トラックタイトルまたはディスク/トラックテキストが1回スクロールします。

● AT.SCRL設定が“On”になっているときに上記の操作を行うと、ディスク/トラックタイトルまたはディスク/トラックテキストが最初の文字からスクロールを開始します。(AT.SCRL設定の方法は、42ページの「ファンクションセット」を参照してください)

MDやCDをいろいろな機能を使ってプレイします。

基本的なMDとCDの聴きかたはEZ Operation (14ページ) をご覧ください。

プレイモード選択

いろいろなプレイ機能を選びます。

1 プレイモード選択を開始します



プレイモード選択を中止するときは…

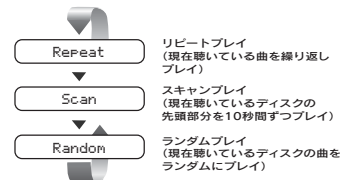


または、10秒間何も操作をしないと中止されます。

2 プレイモードを選びます



回すたびに次のように切り替わります。



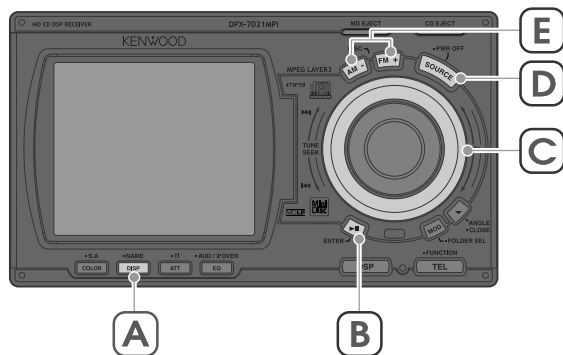
3 プレイモードを確認します



プレイモード選択が終了し、それぞれの機能が働きます。
確定したプレイモードのインジケーターが点灯します。

プレイモードの解除をするときは…





MP3ファイルプレイ

MP3ファイルを聴きます。



MP3ファイルをプレイするには、本機にMP3ファイルの収録されているメディアを挿入します。挿入されているときは、ソース選択でCDソースを選択します。

- 本機でプレイできるメディアはCD-ROM、CD-R、CD-RWです。また、フォーマットがISO9660 level1、level 2、Joliet、またはRomeoのメディアを使用してください。MP3ファイルの書き込み方法や注意などが「Help ? MP3」(67ページ)に記載してあります。メディアを作成する前にご覧ください。
- プレイを開始するまで、MP3ファイルが収録されているメディアかを確認するため、音楽CDをプレイするときより時間がかかります。

ポーズ

現在プレイ中の曲を一時停止します



もう一度押すとプレイを再開します。

ファイルサーチ

順に曲を選びます。



- ファイルサーチにはフォルダ階層の状態により時間がかかることがあります。

フォルダサーチ

順にフォルダを選びます。



押すたびに、次のフォルダ／前のフォルダへとフォルダサーチします。選択したフォルダ内にファイルがない場合は、自動的にプレイ順で一番近いファイルをプレイします。

- ファイル数およびフォルダ階層の状態によりフォルダサーチに時間がかかることがあります。

CDに収録されているMP3ファイルをプレイします。

基本的なMP3ファイルの聴き方はEZ Operation (14ページ) をご覧ください。

マニュアルサーチ

現在プレイ中の曲を早送り／早戻しします。



回して止めている間だけ、早送り／早戻しされます。

- マニュアルサーチ中は、演奏時間は表示されず、また、音声も出力されません。
- 早戻しができるのは、再生中のファイルの先頭までです。

ネーム/ID3スクロール

AT.SCRL設定が“Off”のときに、フォルダ/ファイルネームやID3 Tagをスクロールさせます。

1 フォルダ/ファイルネーム、ID3表示にします



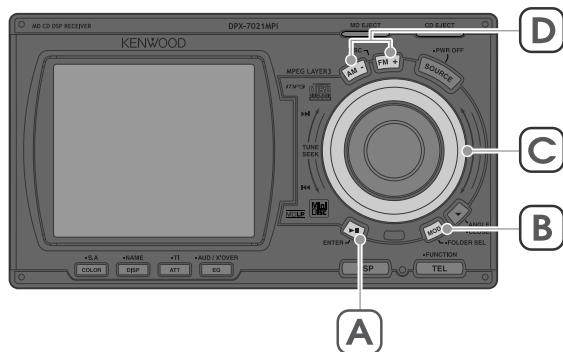
「ディスプレイ表示切り替え」(28ページ)を参照して、フォルダネーム、ファイルネーム、ID3タイトル&アーティスト、またはID3アルバムを表示します。

2 スクロール表示します



2秒以上押すと、表示中のフォルダネーム、ファイルネーム、ID3タイトル&アーティスト、またはID3アルバムが1回スクロール表示します。

- AT.SCRL設定が“On”になっているときに上記の操作を行うと、表示中のフォルダネーム、ファイルネーム、ID3タイトル&アーティスト、またはID3アルバムが最初の文字からスクロールを開始します。(AT.SCRL設定の方法は、42ページの「ファンクションセット」を参照してください)



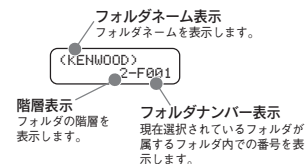
フォルダセレクト

聴きたい曲の入っているフォルダをすばやく選択します。

1 フォルダセレクトモードにします



“SELECT MODE”と表示されるまで押し続けます。
MP3 ファイルプレイが中止され、フォルダセレクトモードになります。
ディスプレイに以下の表示がされます。



フォルダが1つも記録されていないメディアでは、フォルダセレクトモードに入ることはできません。

2 フォルダを選びます

同階層内にあるフォルダ間を移動します



回すたびに、同階層内で次のフォルダ/前のフォルダへと移動します。

フォルダの階層を選択します



押すたびに、1 階層上/1 階層下へと移動します。

フォルダセレクト時のフォルダの移動のしかたは、フォルダサーチとは異なります。くわしくは「Help ? MP3」(67ページ)を参照ください。

3 聴きたい曲が入っているフォルダで...



フォルダセレクトモードが終了し、そのフォルダ内の最初のMP3ファイルがプレイされます。

フォルダセレクトを終了して、選択したフォルダにMP3ファイルがないときは、プレイ順で一番近いファイルがプレイされます。

プレイモード選択

いろいろなプレイ機能を選びます。

1 プレイモード選択を開始します



プレイモード選択を中止するときは...

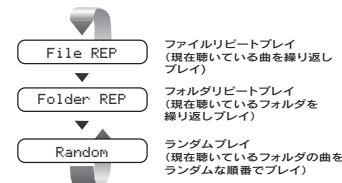


または、10秒間何も操作をしないと中止されます。

2 プレイモードを選びます



回すたびに次のように切り替わります。



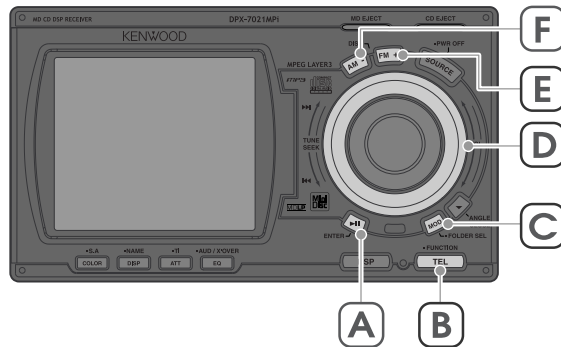
3 プレイモードを確認します



確定したプレイモードのインジケータが点灯し、それぞれの機能が働きます。

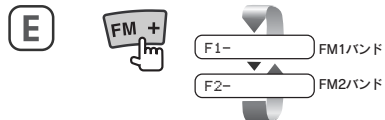
プレイモードの解除をするときは...



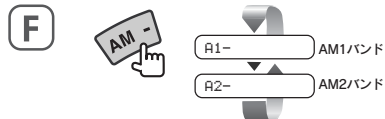


バンド切り替え

FM1とFM2に切り替えます。



AM1とAM2に切り替えます。



チューニング

受信する放送局を選びます。

1 バンドを選びます

前記の「バンド切り替え」を参照してバンドを選びます。

2 放送局を選びます



Seekモードが“AUTO 1”のとき
(AUTO 1インジケータが点灯しています)
受信状態の良い放送局を自動的に選びます。

Seekモードが“AUTO 2”のとき
(AUTO 2インジケータが点灯しています)
メモリーされている放送局を番号順に受信します。
(メモリーの方法は右ページをご覧ください)

Seekモードが“Manual”のとき

押すたびに、周波数が1ステップずつ変わります。

- チューニングモードは「ファンクションセット」(42ページ)の“Seek”項目で選択できます。
- FMステレオ放送を受信するとTELインジケータが点灯します。

プリセットチューニング

メモリーされている放送局を受信します。

1 バンドを選びます

前記の「バンド切り替え」を参照してバンドを選びます。

2 プリセットモードにします



3 メモリーされているナンバー(1~6)を選択します



4 呼び出します



選んだメモリーナンバーが表示され、メモリーされている周波数が呼び出されます。

FM/AM放送を受信します。

また、各バンドごとに6局までの放送局をメモリーしておくこともできます。

基本的なFM/AM放送の聴きかたはEZ Operation (14ページ) をご覧ください。

オートメモリー

受信状態の良い放送局を自動的に選んでメモリーします。

1 バンドを選びます

前記の「バンド切り替え」を参照してバンドを選びます。

2 ファンクションセットモードにします

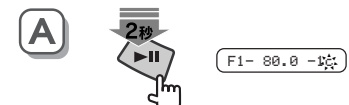


“Function Set”と表示されるまで押し続けます。

3 オートメモリー項目を選択します



4 オートメモリーを開始します



周波数表示になるまで押し続けます。
6局メモリーするか、周波数を1周すると自動的にオートメモリーは終了します。

マニュアルメモリー

受信中の放送局をメモリーします。

1 メモリーする放送局を選びます

前記の「バンド切り替え」と「チューニング」を参照してバンドと放送局を選びます。

2 プリセットモードにします



3 メモリーするナンバー(1~6のいずれか)を選択します



4 メモリーします



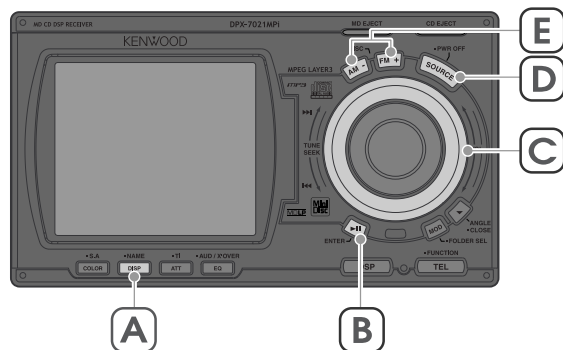
メモリーナンバーが1回点滅表示されるまで押し続けます。

Name set

Functional Operation

Functional Operation

Name set

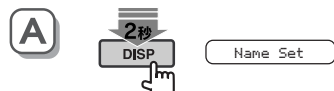


DNPS (ディスクネームプリセット) / SNPS (ステーションネームプリセット) CDやFM/AM放送局に名前を付けます。

1 名前を付けるディスク/放送局を選びます

- MDおよびMP3が収録されているCDにDNPSを行うことはできません。
- 交通情報モード中に受信している放送局にも同様の操作で名前を付けることができます。

2 ネームセットモードにします



“Name Set” と表示されるまで押し続けます。

3 文字を入力する位置にカーソルを移動します

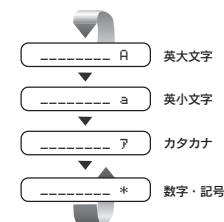


4 文字の種類を選びます



押すたびに次の順で切り替わります。

5 文字を選びます



6 3~5を繰り返して、すべての文字を入力します

7 ネームセットモードを終了します



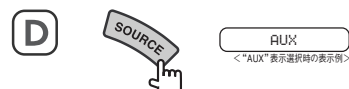
- 10秒間以上、なにも操作しないとその時点で名前が確定されます。
- DNPSは本機内蔵のCDプレーヤーと別売品のCDチェンジャーを合わせて50枚まで登録できます。
- SNPSはFM放送局とAM放送局を合わせて30局まで登録できます。
- 名前は8文字まで登録できます。
- CDはトラック数(曲数)と総録音時間で識別されます。このため、これらが同じCDの場合には識別できません。
- バッテリーから本機を外すとDNPS/SNPSは消去されます。

FM/AM放送局や本機内蔵CDプレーヤーと別売品のCDチェンジャーにセットされているCDに名前を付けて表示させることができます。
また、AUXモードのときに表示される名前を設定できます。

AUXネームセレクト

AUXに切り替えたときの表示を設定します。

1 AUXソースにします



- AUXソースには「ファンクションセット」(42ページ)の“AUX”項目が“On”に設定されているときに切り替わります。
- 「AUXネームセレクト」は本機に内蔵のAUX入力に設定できる機能です。別売品のKCA-S210AまたはCA-C1AXを使用したAUX入力には設定できません。

2 ネームセットモードに入ります



“Name Set” と表示されるまで押し続けます。

3 AUXネームを選択します



回すたびに次の順で切り替わります。



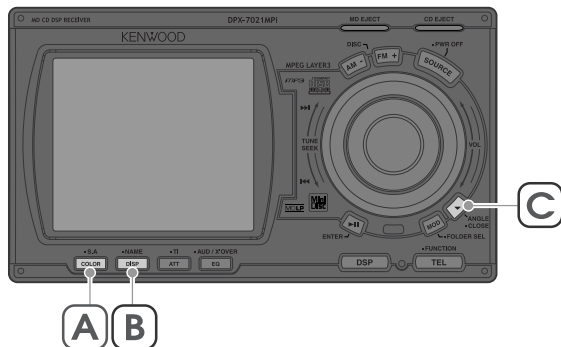
4 ネームセットモードを終了します



- 10秒間以上何も操作しないと、その時点での名前が選択されます。

Name set

Functional Operation



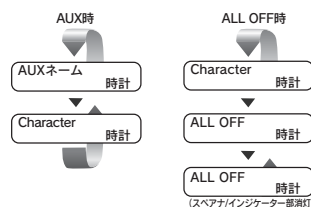
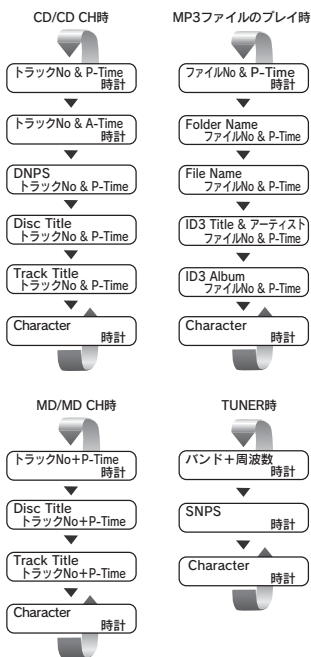
ディスプレイに表示する情報やカラーなどの設定をします。

ディスプレイ表示切り替え

ディスプレイに表示される情報を切り替えます。



押すたびに次の順で切り替わります。

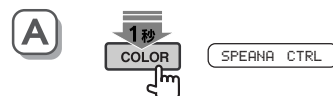


P-Time: 聴いている曲の演奏時間
A-Time: 聴いているCD全体でのトータル演奏時間
DNPS: ディスクネームプリセット (26ページ)
SNPS: ステーションネームプリセット (26ページ)
なお、CDプレイ時のDisc Titleはディスクテキスト、Track Titleはトラックテキストが表示されます。

スペアナの切り替え

スペクトラムアナライザー表示を切り替えます。

1 スペアナコントロールモードにします



“SPEANA CTRL” と表示されるまで押し続けます。

2 アナライザーを選択します



押すたびに次の順で切り替わります。



3 スペアナコントロールモードを終了します



または、約10秒間以上、なにも操作しないでおきます。

操作パネル角度調節

操作パネルを見やすい角度に調整します。

パネルをスライドします。



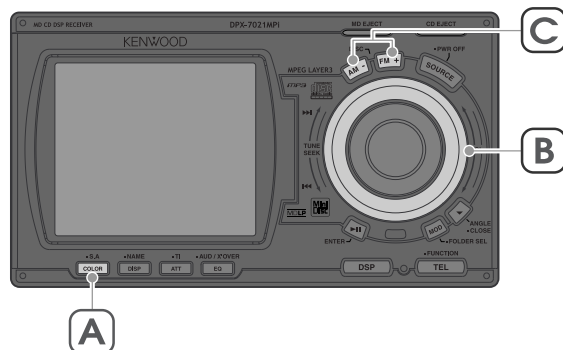
押すたびに、操作パネルが1ステップずつ10段階にスライドします。

パネルを元の位置に戻します。



パネルが動き始めるまで押し続けます。

パネルスライド中は、FM/AM放送の音は出力されません。



イルミカラーコントロール

ディスプレイのイルミネーション色を設定します。

1 イルミコントロールモードにします



2 イルミネーション色を選択します



押すたびに次の順で切り替わります。

「ユーザーカラー」は「イルミユーザーカラー設定」(次ページ)で調整した色が呼び出されます。



3 イルミコントロールモードを終了します



または、約10秒間以上、なにも操作しないでおきます。

イルミユーザーカラー設定

ディスプレイ色を自由に調整します。

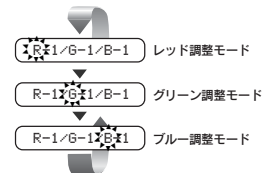
1 イルミコントロールモードにします



2 調整する色を選択します



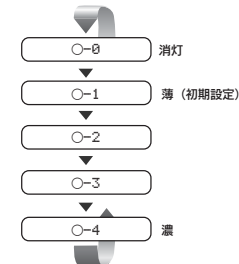
イルミネーション色がユーザーカラー設定になり、押すたびに次の順で切り替わります。



3 イルミネーション色を調整します



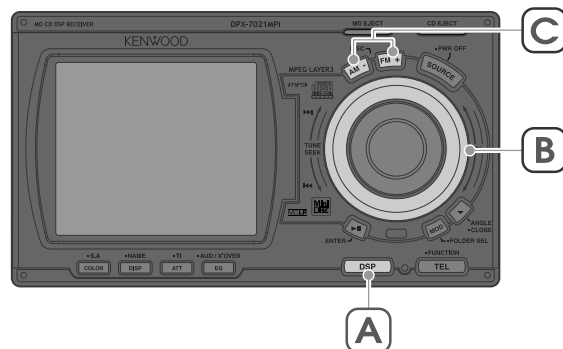
回すたびにそれぞれの色が、次のように切り替わります。



4 イルミコントロールモードを終了します



または、約10秒間以上、なにも操作しないでおきます。
「イルミカラーコントロール」(前ページ)で「ユーザーカラー」設定を選べると、ここで調整した色が呼び出されます。




DSP (デジタルシグナルプロセッサー) の設定をします。
また、設定内容を調整することもできます。

DSPシステム

DSP機能を使います。

DSPシステムをオンにします



DSP効果のかかった音が出力されます。
DSPシステムがオンのときには、DSPマーク  が点灯します。
DSPシステムの設定はDSPシステムがオンの状態でのみ行えます。

- オーディオコントロール項目の“Balance”および“Fader”を中央以外に設定すると、正しいDSP効果が得られません。“Bypass”以外に設定したときは、“Balance”および“Fader”を中央位置で使用してください。(38ページ)
- 交通情報モード中は、自動的にDSP機能が一時解除 (バイパス) されます。

DSPシステムをオフにします




“DSP Off”と表示されるまで押し続けます。
DSP効果が解除されます。

DSPの設定

DSPの効果を設定します。

1 DSPコントロールモードにします

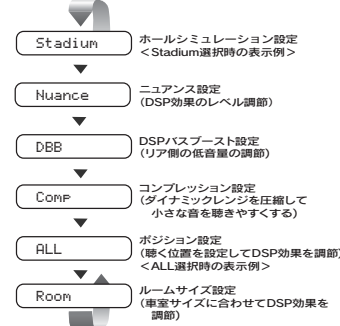


DSPシステムがオフのとき (DSPマーク  が消灯時) は2回押します。

2 設定する項目を選択します



押すたびに次の順で設定項目が切り替わります。

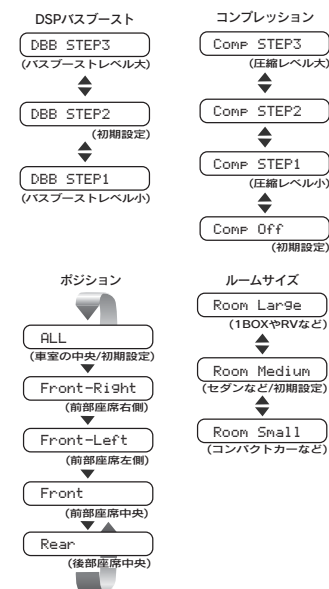



- ホールシミュレーション設定が“Bypass” (バイパス) の場合は、ニュアンス設定とDSPバスブースト設定は行えません。
- ポジションが“ALL” (車室内の中央) の場合は、ルームサイズ設定は行えません。

3 設定値を選択します



設定項目ごとの設定値は次のとおりです。

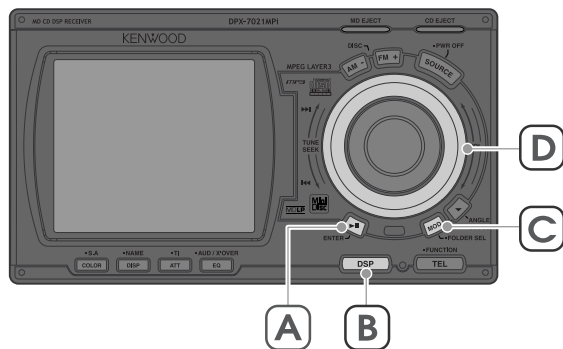


現在のポジションの調整状態はPOSマーク  でも確認できます。

4 DSPコントロールモードを終了します



または、約10秒間以上、なにも操作しないでおきます。



DSPプリセット

DSPの設定を3種類までメモリーしておくことができます。

1 DSPを設定します

「DSPの設定」(32ページ)を参照してDSPの設定をします。

2 プリセットモードにします



手順1の後、DSPコントロールモードが解除された場合(DSPコントロールモード中はDSPマークが点滅しています)は、再び **DSP** を押してDSPコントロールモードにしてから手順2の操作をしてください。

3 メモリーするナンバー(1~3のいずれか)を選択します



4 メモリーします



“DSP MEM○”表示が1回点滅するまで押し続けます。

DSPプリセットコール

プリセットしたDSPの設定を呼び出します。

1 DSPコントロールモードにします



DSPシステムがオフのとき(DSPマークが消灯時)は2回押します。

2 プリセットモードにします

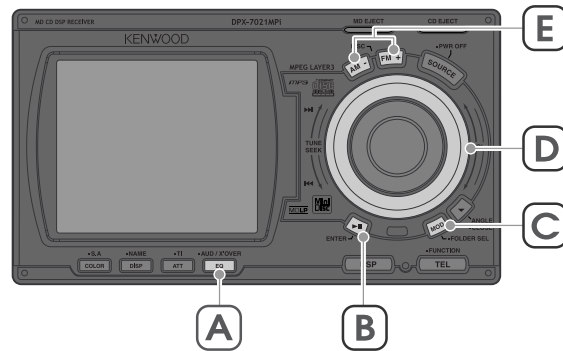


3 呼び出すメモリーナンバー(1~3)を選択します



4 呼び出します





イコライザーのカーブの設定や調節をします。

イコライザーカーブの選択

イコライザーカーブを呼び出します。

1 イコライザーコントロールモードにします



2 イコライザーカーブを選択します



押すたびに次の順で切り替わります。



イコライザーカーブの調節をしたときは、“User” から選択が始まります。

3 イコライザーコントロールモードを終了します



1秒以上押し続けるとイコライザーコントロールモードが終了します。
または、約10秒間以上、なにも操作しないでおきます。

イコライザーカーブの調節

車や音楽に合わせて独自のイコライザーカーブに調節できます。

1 イコライザーコントロールモードにします



2 調節する周波数を選びます



60Hz～16kHz（9ステップ）から選択します。

3 レベルを調節します



−12dB～+12dB（13ステップ）から選択します。

4 イコライザーコントロールモードを終了します



1秒以上押し続けるとイコライザーコントロールモードが終了します。
または、約10秒間以上、なにも操作しないでおきます。

イコライザープリセット

イコライザーの設定を3種類までメモリーしておくことができます。

1 イコライザーを設定します

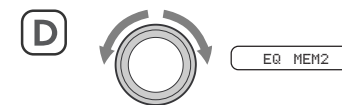
「イコライザーカーブの調節」（前ページ）を参照してイコライザーの設定をします。

2 プリセットモードにします

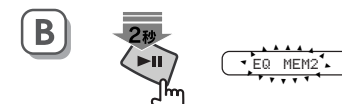


手順1の後、イコライザーコントロールモードが解除された場合（イコライザーコントロールモード中はEQマーク が点滅しています）は、再び を押してイコライザーコントロールモードにしてから手順2の操作をしてください。

3 メモリーするナンバー(1～3のいずれか)を選択します



4 メモリーします



“EQ MEM○”表示が1回点滅するまで押し続けます。

イコライザープリセットコール

プリセットしたイコライザーの設定を呼び出します。

1 イコライザーコントロールモードにします



2 プリセットモードにします

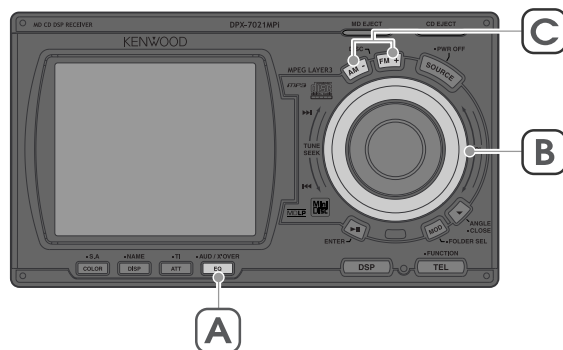


3 呼び出すメモリーナンバー(1～3)を選択します



4 呼び出します





音量バランスの調節やサブウーファー追加時のクロスオーバーネットワークの設定などをします。
また、交通情報を受信時の音量を設定します。

オーディオコントロール

音量バランスなどを設定します。

1 オーディオ調整モードにします



“AUDIO CTRL”と表示されるまで押し続けます。

オーディオコントロールはALL OFF以外のモード中に設定できます。

2 設定モードを選びます



押すたびに「オーディオ調整モード」(表1)と「クロスオーバー調整モード」(表2)とに切り替わります。

3 設定する項目を選択します



右表の順番で設定項目が切り替わります。

設定項目の詳細機能説明は「Help Word」(70ページ)を参照してください。

4 値を選択します



設定できる項目と値は次のとおりです。
表内の [] の設定値は初期設定です。

オーディオ調整モード (表1)

設定項目	設定値
Balance (左右の音量バランス)	L15~[00]~R15
Fader (前後の音量バランス)	R15~[00]~F15
N-F (ノンフェーダーリアウト出力レベル)	---~[00]~+10
Amp Cont (外部アンプコントロール)	[0ff]/1/2

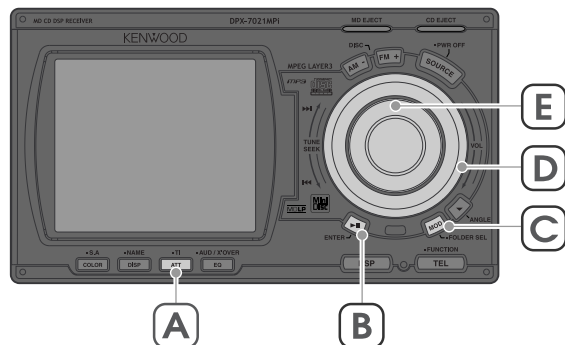
クロスオーバー調整モード (表2)

設定項目	設定値
HPF-F (フロント低音カット)	[0ff]/30/60/90/120/150/180/250 (Hz)
HPF-R (リア低音カット)	[0ff]/30/60/90/120/150/180/250 (Hz)
HPF Slope (低音カッスロープ)	[12]/18/24 (dB/Oct.)
LPF (ノンフェーダー高音カット)	60/80/100/120/150/[0ff] (Hz)
LPF Slope (高音カッスロープ)	[12]/18/24 (dB/Oct.)
T-DLY F (フロント遅延時間)	[0ff]/0.5~18 (msec.)
T-DLY R (リア遅延時間)	[0ff]/0.5~18 (msec.)
T-DLY NF (ノンフェーダー遅延時間)	[0ff]/0.5~18 (msec.)

“N-F”、“LPF”、“LPF Slope”、および“T-DLY NF”設定は、「ファンクションセット」(42ページ)の“Preout”項目が“N-F”に設定されているときに選択できます。

5 オーディオ調整モードを終了します





クロスオーバープリセット

クロスオーバーの設定を3種類までメモリーしておくことができます。

1 クロスオーバーを設定します

「オーディオコントロール」(38ページ)を参照してクロスオーバーの設定をします。

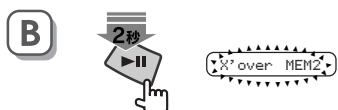
2 プリセットモードにします



3 メモリーするナンバー(1~3のいずれか)を選択します



4 メモリーします



“X'over MEM○”表示が1回点滅するまで押し続けます。

クロスオーバープリセットコール

プリセットしたクロスオーバーの設定を呼び出します。

1 クロスオーバー調整モードにします

「オーディオコントロール」(38ページ)を参照してクロスオーバー調整モードにします。

2 プリセットモードにします



3 呼び出すメモリーナンバー(1~3)を選択します



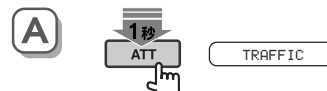
4 呼び出します



交通情報音量設定

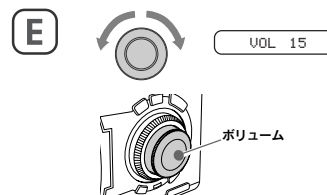
交通情報受信時の音量をメモリーします。

1 交通情報モードにします



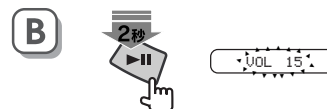
“TRAFFIC”と表示されるまで押します。

2 設定したい音量にします

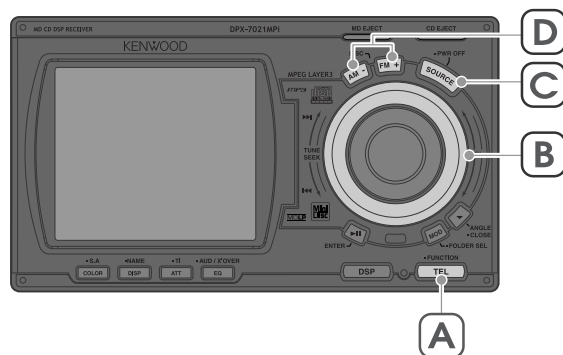


ボリュームツマミを回して、設定したい音量に調節します。

3 音量をメモリーします



音量が表示中に、1回点滅するまで押し続けます。
次回から交通情報モードにすると、自動的にこの設定した音量になります。
もう一度押すと、交通情報モードは解除されます。



本機のいろいろな機能を設定します。

ファンクションセット

操作時のピープ音などの各種の機能を設定します。

1 設定項目があるモードにします

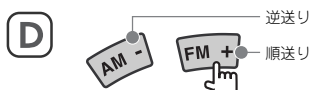


2 ファンクションセットモードにします



“Function Set” と表示されるまで押し続けます。

3 設定する項目を選択します



右表の順番で設定項目が切り替わります。

● 設定項目の詳しい機能説明は「Help Word」(70ページ)を参照してください。

4 設定値を選択します



設定できる項目と値は次のとおりです。
表内の [] の設定値は初期設定です。

ALL OFF中の設定項目

設定項目	設定値
U-Color (ディスプレイのカラーモード設定)	[Sync]/Fix
Contrast (ディスプレイの文字のコントラスト設定)	1~[6]~11
BEEP (ピープ音)	[On]/Off
Preout (プリアウト出力選択)	[Rear]/N-F
Opening (電源オン時のデモレーション表示)	[On]/Off
CODE STBY (セキュリティコードの登録モード)	登録の方法は44ページをご覧ください。
NAV. ATT (ナビ音声ガイド時のミュート設定)	[Off]/On
AUX (AUXソース切り替え設定)	[Off]/On
TEL (携帯電話接続タイプ設定)	[BUS]/Plug
AMP MUTE (内蔵アンプの出力停止設定)	[Off]/On

TUNERソース中の設定項目

設定項目	設定値
Seek (チューニングモード)	[AUTO 1]/ AUTO 2/ Manual
MONO (FM放送モノラルチューニング)	On/[Off]
AME Ready (オートメモリー)	登録の方法は25ページをご覧ください。

● “MONO” 項目はFM放送を受信時に設定が可能になります。

MD/CD(MP3)/Changerソース中の設定項目

設定項目	設定値
AT. SCRL (ディスクタイトル/CDテキストオートスクロール)	[On]/Off

● MDプレイ時とCD(MP3)プレイ時のそれぞれで設定が可能です。

MP3ファイルプレイ中の設定項目

設定項目	設定値
ID3 Tag (MP3 ID3の読み込み・表示設定)	[On]/Off

AUXソース中の設定項目

設定項目	設定値
AUX VOL (AUXソース時のボリューム設定)	[00]~+15 (dB)

全ソース中の設定項目

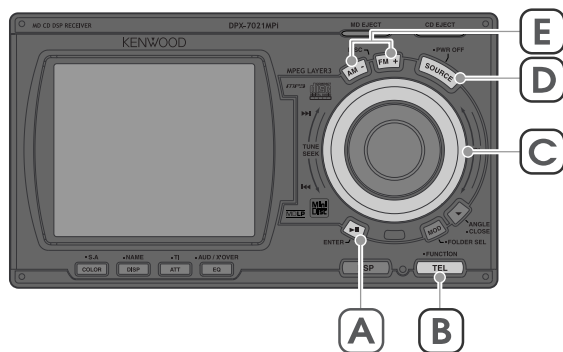
設定項目	設定値
TEL Posi (受話音スピーカー設定)	[L]/R
TEL VOL (着信呼び出し音量設定)	0~[22]~35
TEL Rcv (自動応答時間設定)	[Off]/5s /7s/10s
TEL Memo (携帯電話メモリーの読み込み)	読み込みの方法は52ページをご覧ください。
TEL Erase (登録メモリーダイヤルの消去)	消去の方法は53ページをご覧ください。
TEL NUM (着信電話番号表示)	[On]/Off

● “TEL Posi” 項目の設定は、ハンズフリーシステムのハウリングを防ぐため、運転席とは逆のスピーカー (右ハンドル車の場合は左スピーカー) に設定してください。

● “TEL” 項目が “BUS” に設定されているときは、携帯電話を接続しているときに表示されます。また、“Plug” に設定されているときは “TEL Posi” 項目のみ設定ができます。

5 ファンクションセットモードを終了します





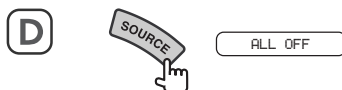
セキュリティコードを設定すると、電源コードを外したときなどの次に使うときは、設定したセキュリティコードを入力しないと電源がオンできないようになり、盗難防止の手助けとなります。

セキュリティコード

暗証番号を登録することにより盗難を抑制します。

- 設定したセキュリティコードは変更・削除はできません。また、機能の解除もできません。コードは忘れないようにメモを取るなどしてください。

1 ALL OFFモードにします



2 ファンクションセットモードにします



“Function Set”と表示されるまで押し続けます。

3 セキュリティコード項目を選択します

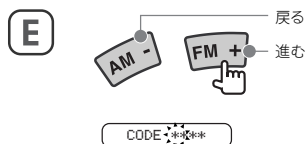


4 セキュリティコード入力を開始します



“CODE WRITE”と表示されるまで押し続けます。

5 コード入力桁を選択します



6 コードを選択します



7 セキュリティーコードを完成させます

手順5～6を繰り返して4桁のセキュリティコードを完成させます。

8 セキュリティコードを登録します



9 セキュリティコードを再度入力します

確認のためセキュリティコードを手順5～6の方法で再度入力します。

- 手順5と違うコードを入力して手順10の操作を行うと、手順5の1回目のセキュリティコードの入力に戻ります。

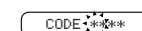
10 セキュリティコードを再度登録します



セキュリティコードの登録が完了後に、リセットボタンを押したり、本機をバッテリーの接続から外すと、登録したセキュリティコードの入力が必要になります。詳しくは以下をご覧ください。

リセットボタンを押したり、本機をバッテリーから外してから最初に使うときは・・・

1 セキュリティコード入力状態にします



電源をオンにしてから、デモンストレーション終了後に“CODE ***”表示がされるまで数秒間待ちます。

2 セキュリティコードを入力します

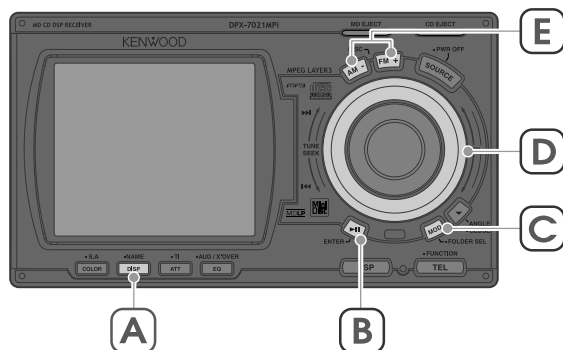
前記の手順5～6の操作を繰り返して4桁のセキュリティコードを入力します。

3 セキュリティコードを確認します



本機が使用可能となります。

- セキュリティコードを登録したときと違うコードで入力すると、“CODE NG”と表示した後、電源が自動的にオフになります。このようなときは、リセットボタンを押して電源をオンしてから再度セキュリティコードを入力してください。



別売品のディスクチェンジャーを接続しているときは、本機からコントロールできます。

ディスクチェンジャーへの切り替えかたはソース選択（16ページ）をご覧ください。

ディスクサーチ

プレイするディスクを選択します。



トラックサーチ

順に曲を選びます。



マニュアルサーチ

現在プレイ中の曲を早送り／早戻しします。



回して止めている間だけ、早送り/早戻しされます。

ポーズ

現在プレイ中の曲を一時停止します



もう一度押すとプレイを再開します。

タイトル/テキストスクロール

AT.SCRL設定が“Off”のときに、タイトル/テキスト表示をスクロールさせます。

1 タイトル/テキスト表示にします



「ディスプレイ表示切り替え」(28ページ)を参照して、ディスク/トラックタイトルまたはディスク/トラックテキストを表示します。

2 スクロール表示します



2秒以上押し、ディスク/トラックタイトルまたはディスク/トラックテキストが1回スクロールします。

● AT.SCRL設定が“On”になっているときに上記の操作を行うと、ディスク/トラックタイトルまたはディスク/トラックテキストが最初の文字からスクロールを開始します。(AT.SCRL設定の方法は、42ページの「ファンクションセット」を参照してください)

プレイモード選択

いろいろなプレイ機能を選びます。

1 プレイモード選択を開始します



プレイモード選択を中止するときは…



または、10秒間何も操作をしないと中止されます。

2 プレイモードを選びます



回すたびに次のように切り替わります。



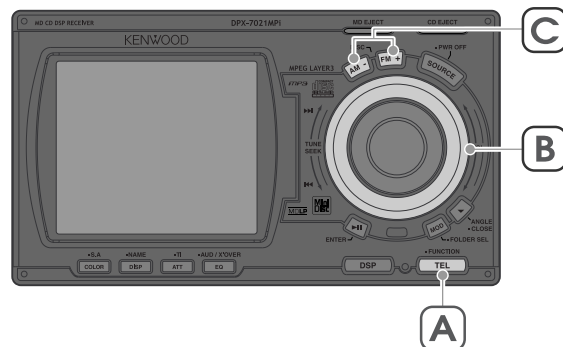
3 プレイモードを確認します



プレイモード選択が終了し、それぞれの機能が働きます。
確定したプレイモードのインジケーターが点灯します。

プレイモードの解除をするときは…





別売品のCA-HF100またはCA-HF200を使って携帯電話を接続すると、ハンズフリー通話や本機からの携帯電話のコントロールなどができます。

(別売品のCA-HF300を使って携帯電話を接続した場合は「Hands-free call Control」54ページをご覧ください)

ハンズフリーで電話をかける

携帯電話を持たずに電話をします。

- 携帯電話接続時の注意事項が「携帯電話を本機に接続する前に」と「携帯電話をCA-HF100/HF200で接続したときは」(8ページ)に記載されています。使用する前にお読みください。
- 電話番号を携帯電話から本機に読み込んでいないと使用できません。電話番号の読み込みまたは「携帯電話メモリー読み込み」(52ページ)を参照してください。

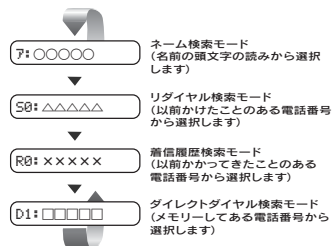
1 テレホンモードにします



2 電話番号検索モードを選択します



押すたびに次の順で切り替わります。



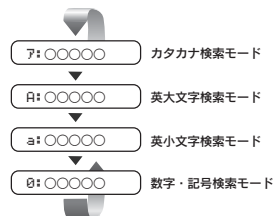
ダイレクトダイヤルのメモリーのしかたは「ダイレクトダイヤルメモリー」(51ページ)を参照してください。

3 電話番号を選びます

ネーム検索モードで電話番号を選ぶ



回すたびに名前が切り替わります。表示される“名前”は携帯電話にメモリーされている“読み”に準じます。“検索文字：名前”と“電話番号”が交互に表示されます。
 [ENT]を押すと検索する文字種が以下のように切り替わります。



リダイヤル検索モードで電話番号を選び



以前にかけた最新の10件から電話番号、名前で選択します。“リダイヤル番号：名前”と“電話番号”が交互に表示されます。

着信履歴検索モードから電話番号を選ぶ



以前にかかってきた最新の10件から電話番号を選択します。“着信履歴番号：名前”と“電話番号”が交互に表示されます。

ダイレクトダイヤルから電話番号を選ぶ



メモリーしてある6件の電話番号から選択します。“ダイレクトダイヤル番号：名前”と“電話番号”が交互に表示されます。

●“名前”は本機に該当する電話番号がメモリーされている場合にのみ表示されます。

4 電話をかけます



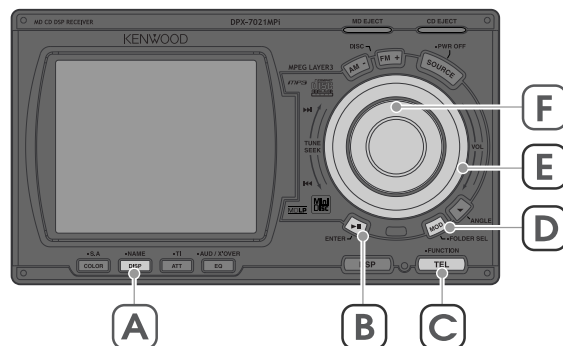
“TELEPHONE”と表示されるまで押し続けます。相手が応答するとハンズフリー通話ができます。通話中は、選択中のソースが一時停止状態になります。

- 通話中に [SOURCE] を押すと通話は中断され、オーディオソースに切り替わります。
- 接続している携帯電話によっては、通信事業者からの案内メッセージなどがスピーカーから聞こえないことがあります。

5 通話を終了します



電話をかける前のソースに戻ります。



(別売品のCA-HF300を使って携帯電話を接続した場合は「Hands-free call Control」54ページをご覧ください)

ハンズフリーで電話を受ける

携帯電話を持たずに電話にでられます。

1 電話がかかってきたら…



ハンズフリーで通話ができます。

着信中は“TELEPHONE”と“発信者の名前” (本機に該当する電話番号がメモリーされていない場合は“電話番号”) が交互に表示されます。

「ファンクションセット」(42ページ)の“TEL Rcv”項目が5、7、または10秒に設定されている場合は、設定した時間が経つと自動的に応答し、ハンズフリー通話ができます。通話中は、選択中のソースが一時停止状態になります。

- 着信状態のときに **[SOURCE]** を押すと、電話を応答せずに切ることができます。
- 本機の操作では応答保留にすることはできません。
- 発信者からの番号通知がない場合や、「ファンクションセット」(42ページ)の“TEL NUM”項目を“Off”に設定している場合の着信表示は、“TELEPHONE”の点滅表示になります。

2 通話を終了します



電話をかける前のソースに戻ります。

プライベート通話

ハンズフリー通話中に携帯電話での通話に切り換えます。



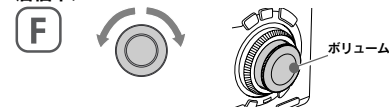
通話中に押すたびに、ハンズフリー通話とプライベート通話とに切り替わります。

- 発信中または着信中にプライベート通話にすると正常に発信・着信ができない場合があります。プライベート通話への切り替えは通話中に行ってください。
- 接続している携帯電話によっては、プライベート通話機能が正常に動作しない場合があります。本機能の対応している携帯電話の機種についてはカタログをご覧ください。

着信音量の調節

呼び出し音の大きさを調節します。

着信中に…



ボリュームツマミを回して、呼び出し音の大きさを調節します。次回からの呼び出し音は、自動的にこの調節した音量となります。

- この呼び出し音量の設定は「ファンクションセット」(42ページ)の“TEL VOL”項目と同一の設定です。このため、“TEL VOL”項目の設定値は、この機能で設定した設定値に置き換わります。

受話音量の調節

ハンズフリー通話中の相手の声の大きさを調節します。

ハンズフリー通話中に…



ボリュームツマミを回して、相手の声の大きさを調節します。次回からのハンズフリー通話は、自動的にこの調節した受話音量となります。

- 受話音量を大きくするとエコーが発生しやすくなります。エコーが発生したときは、受話音量をできるだけ小さくしてください。エコー音は、受話音量に比例して大きくなります。

ダイレクトダイヤルメモリー

ダイレクトダイヤルに電話番号をメモリーします。

1 テレホンモードにします



2 メモリーしたい電話番号を選びます

「ハンズフリーで電話をかける」(48ページ)を参照して電話番号を選びます。

3 プリセットモードにします



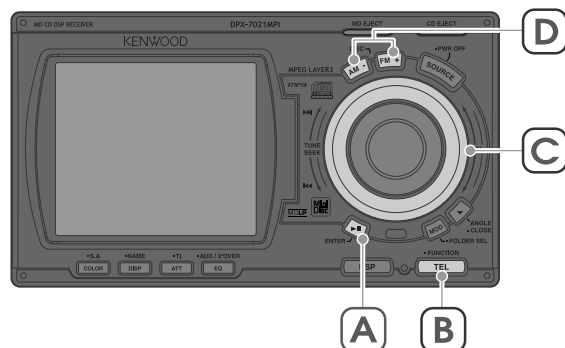
4 メモリーするナンバー(1~6のいずれか)を選択します



5 メモリーします



“TEL MEM○”表示が1回点滅するまで押し続けます。



(別売品のCA-HF300を使って携帯電話を接続した場合は「Hands-free call Control」54ページをご覧ください)

携帯電話メモリー読み込み

携帯電話にメモリーされている電話番号を最大50件まで読み込みます。

1 ファンクションセットモードにします



“Function Set” と表示されるまで押し続けます。

2 電話番号読み込み項目を選択します



3 携帯電話メモリーの読み込み始める番号を指定します



回すたびに、携帯電話から読み込みを始める電話番号のメモリー番号の指定が変わります。“0050”と指定した場合、携帯電話のメモリー番号の「50」から「99」を読み込みます。指定できる番号は50件単位で変わります。

4 電話番号読み込みを開始します



インジケーターが点滅するまで押し続けます。読み込みが終了するとインジケーターが点滅から点灯に変わります。

- 携帯電話から50件の電話番号を読み込むためには、2～4分程度の時間がかかります。
- 50件分のメモリー番号の内、電話番号や名前が登録されていないメモリー番号があった場合は、登録されていないメモリー番号としてそのまま読み込まれます。また、シークレット機能がかったメモリー番号は読み飛ばされます。

メモリーダイヤル消去

携帯電話から読み込んだ電話番号やダイレクトダイヤル、ダイヤル履歴、着信履歴などのメモリーしてある電話番号をすべて消去します。

1 ファンクションセットモードにします



“Function Set” と表示されるまで押し続けます。

2 電話番号の消去項目を選択します

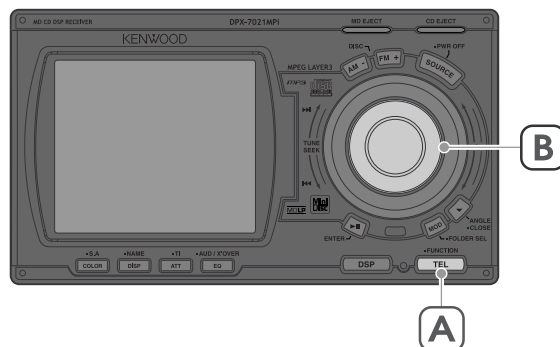


3 電話番号の消去を実行します



2秒以上押すと、ビーブ音が2回鳴り、消去が完了します。

- 電話番号の消去は、1つずつ個別に行う方法はありません。



別売品のCA-HF300を使って携帯電話を接続すると、ハンズフリー通話ができます。

(別売品のCA-HF100またはCA-HF200を使って携帯電話を接続した場合は「Telephone Control」48ページをご覧ください)

- ハンズフリーキットCA-HF300（別売品）を使用して携帯電話を接続した場合は、「ファンクションセット」（42ページ）の“TEL”項目を“Plug”に設定してから使用してください。“BUS”の設定のままでは正しく動作しません。
- 携帯電話の受話音量は、最大に設定してください。上記のほかにも、携帯電話接続時の注意事項が「携帯電話を本機に接続する前に」（8ページ）と「携帯電話をCA-HF300で接続したときは」（9ページ）に記載されています。使用する前にお読みください。

電話をかける

携帯電話を持たずに通話をします。

1 テレホンモードにします



TELEPHONEモードになります。TELEPHONEモード中は、選択中のソースが一時停止状態になります。

- 電話機によってはスピーカーから自分の声が聞こえる（エコー）ことがあります。エコーが発生したときは、本機の音量をできるだけ小さくしてください。エコー音は音量に比例して大きくなります。

2 携帯電話を操作して電話をかけます

携帯電話の操作方法は、携帯電話に付属の説明書をご覧ください。相手が応答するとハンズフリー通話ができます。

- 携帯電話の操作は、安全な場所に車を停車させてから行ってください。走行中に操作を行うと、交通事故の原因となります。

3 テレホンモードを終了します。



テレホンモードにする前のソースに戻ります。

4 通話を終了します

携帯電話のオンフックボタンを押します。

電話を受ける

携帯電話を持たずに電話にでられます。

1 テレホンモードにします



TELEPHONEモードになります。TELEPHONEモード中は、選択中のソースが一時停止状態になります。

2 携帯電話を操作して電話を受けます

携帯電話のオフフックボタンを押します。ハンズフリー通話ができます。

- 携帯電話の操作は、安全な場所に車を停車させてから行ってください。走行中に操作を行うと、交通事故の原因となります。

3 テレホンモードを終了します。



テレホンモードにする前のソースに戻ります。

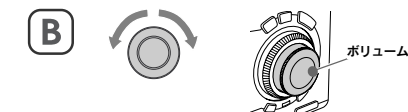
4 通話を終了します

携帯電話のオンフックボタンを押します。

受話音量の調節

ハンズフリー通話中の相手の声の大きさを調節します。

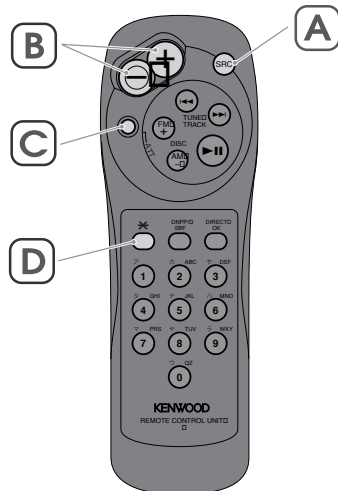
ハンズフリー通話中に…



ボリュームツマミを回して、相手の声の大きさを調節します。次回からのハンズフリー通話は、自動的にこの調節した受話音量となります。

- 受話音量を大きくするとエコーが発生しやすくなります。エコーが発生したときは、受話音量をできるだけ小さくしてください。エコー音は、受話音量に比例して大きくなります。

Common Operation



ソース切り替え

A プレイするソースを切り替えます。

音量調節

B 音量を調節します。

アッテネーター

C ワンタッチで音量を小さくします。もう一度押すと元の音量に戻ります。
Ⓜを押しても元の音量に戻ります。

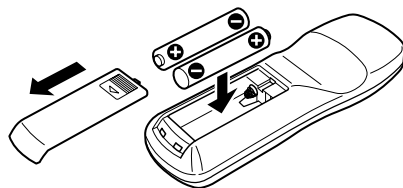
パネル角度調整

D パネルの角度を調整します。

リモコンのDNPP/SBFボタンは、本機では機能しません。

電池の入れかた

付属の電池（単四型2本）を+/−の向きを正しく合わせて入れてください。



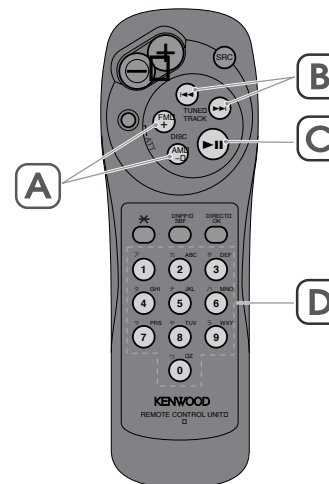
● 操作できる距離が短くなったり、なかなか動作しない場合は、乾電池が消耗していることが考えられます。このような場合は、2個とも新しい乾電池と交換してください。新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用すると、液漏れなどによる故障の原因になります。



注意

- リモコンは、ブレーキ操作などによって動かない場所においてください。ペダルの下などに落ちると、運転操作に支障をきたして危険です。
- 電池を充電、ショート、分解、加熱したり、火の中に入れてたりしないでください。液漏れを起こす危険があります。液漏れを起こし、目に入ったり、皮膚や衣類に付着したときは、すぐに水で洗い流し、すぐに医師に相談してください。また、電池は子供の手の届かないところに置き、万一飲み込んだときは、すぐに医師に相談してください。

MD/CD/MP3 Operation



ディスクサーチ(ディスクチェンジャーのみ)/フォルダーサーチ

A プレイするDISC/フォルダを選択します。
また、テンキーに続けて押すと、指定した番号のディスクをダイレクトサーチします。

トラックサーチ/ファイルサーチ

B プレイする曲/ファイルを選択します。
また、テンキーに続けて押すと、指定した番号のトラック/ファイルをダイレクトサーチします。

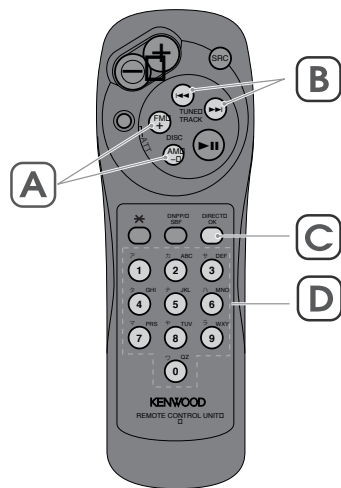
プレイ/ポーズ

C プレイを一時停止します。
もう一度押すと、プレイを再開します。

テンキー

D テンキーに続けてディスクサーチまたはトラックサーチキーを押すと、ダイレクトサーチできます。MP3ファイルをプレイ時は、テンキーに続けてファイルサーチキーを押すと、現在のフォルダ内のファイルをダイレクトサーチできます。

Tuner Operation



バンド切り替え

A 受信するバンドを切り替えます。

選局

B 受信する放送局を選択します。

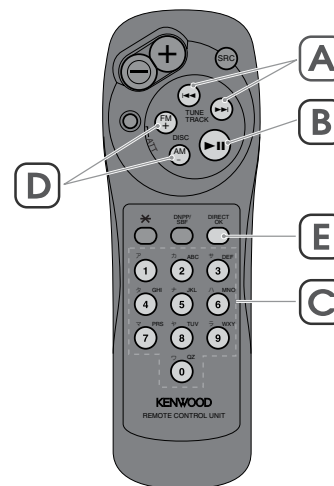
ダイレクトサーチ

C このボタンに続けて、受信する放送局をテンキーで指定します。
例：76.1MHz(FM)の場合
⑦ ⑥ ①
例：52.2kHz(AM)の場合
⑤ ② ②

テンキー

D メモリーされている放送局の番号を選択します。(①～⑥)
DIRECTキーに続けて、受信するFM/AM放送局の周波数の数字を指定します。

SNPS/DNPS Operation



カーソル

A カーソルを文字を入力する位置に移動します。

文字種切り替え

B 入力する文字の種類(英大文字/英小文字/カタカナ/数字・記号)を切り替えます。

テンキー

C 文字を入力します。
例：「コ」を入力する場合(カタカナ)
② (5回押す)
例：「h」を入力する場合(英小文字)
④ (2回押す)

文字選択

D 文字を順に切り替えます。

終了

E 登録が完了します。

- SNPS/DNPSを開始するには、本体の **DISP** を2秒以上押します。
- テンキーで数字・記号は入力できません。

電源がオンにならない

- ヒューズが切れている。
- 入出力ケーブル、電源コード、パワーコントロールコードなどの接続が間違っている。
- コード類がショートしていないことを確認した後、同じ容量のヒューズと交換してください。
- 取付説明書を参照して正しく接続し直してください。

音が出ない/音が小さい

- フェダー、バランスが片方に寄っている。
- ファンクションセットの“AMP MUTE”項目が“On”に設定されている。
- フェダーやバランスを正しく調整してください。
- ファンクションセットの“AMP MUTE”項目を“Off”に設定してください。(42ページ)

操作スイッチを押しても動作しない

- 操作パネルがスライドしている。
- 内蔵のマイコンが誤動作している。
- 操作パネルを閉じてください。
- リセットボタンを押してください。(10ページ)

音質が悪い (音がひずむ)

- 音量が大きすぎる。
- スピーカーコードが車両側のネジにかみ込んでいる。
- スピーカーの配線が間違っている。
- 音量を適正に調整してください。
- スピーカーの配線を確認してください。
- スピーカー出力端子をそれぞれのスピーカーと正しく接続してください。

チューナーの感度が悪い

- 自動車のアンテナが伸びていない。
- アンテナコントロール電源が接続されていない。
- アンテナ入力がかちんと接続されていない。
- アンテナを十分に伸ばしてください。
- 取付説明書を参照して正しく接続し直してください。
- アンテナ入力を確実に接続してください。

SRCボタンを押しても、CHに切り替わらない

- それぞれのソースを聴くのに必要な別売品のユニットが接続されていない。
- 別売品ユニットを接続後にリセットボタンが押されていない。
- 別売品ユニットのO-NスイッチをO側にしている。
- 本機が対応していないディスクチェンジャーを使用している。
- 接続されていないソースには切り替わりません。取付説明書を見て正しく接続してください。
- リセットボタンを押してください。(10ページ)
- O-NスイッチはN側に設定してください。
- 対応モデルのディスクチェンジャーをお使いください。(8ページ)

オーディオコントロールのN-F、LPF、LPF Slope、T-DLY NF項目が表示されない

- ファンクションセットの“Preout”項目が“Rear”に設定されている。
- ファンクションセットの“Preout”項目を“N-F”に設定してください。(42ページ)

MD/CD/External Disc mode

SRCボタンを押してもディスク (MD/CD) に切り替わらない

- ディスクがセットされていない。
- プレイするディスクをセットしてください。

ディスク (MD/CD) が入らない

- すでにディスクが入っている。
- 入っているディスクを取り出してから入れてください。

MDが引き込まれない

- MDを入れる方向が間違っている、または裏返しになっている。
- 正しい方向で入れてください。

ディスク (MD/CD) のプレイ中に振動で音飛びする

- 取り付け角度が30°を超えている。
- 取り付けが不安定になっている。
- 30°以下になるように取り付けしなおしてください。
- しっかりと取り付け直してください。なお、駐停車中에서도音飛びする場合や同じ場所で音飛びする場合はディスクに原因があります。

CDをプレイできない

- CDが裏返しである。
- CDが異常に汚れている。
- 結露している。
- CDが内部的に検出されていない。
- レーベル面を上にして入れ直してください。
- 「CDの取り扱い」を見て、CDをクリーニングしてください。
- しばらく放置してから使用してください。(10ページ)
- リセットボタンを押してCDを取り出してから、再度CDを挿入してください。

選曲操作をしても、目的の曲に切り替わらない

- ランダムプレイがオンになっている。
- ランダムプレイをオフにしてください。(19/23/47ページ)

同じ曲を繰り返しプレイするだけで、次の曲に進まない

- リピートプレイがオンになっている。
- リピートプレイをオフにしてください。(19/23/47ページ)

曲の先頭しかプレイされない

- スキャンプレイがオンになっている。
- スキャンプレイをオフにしてください。(19/47ページ)

チェンジャー内の同じディスクだけしかプレイされない

- ディスクリピートプレイがオンになっている。
- ディスクリピートプレイをオフにしてください。(47ページ)

曲が順にプレイされない

- ランダムプレイがオンになっている。
- ランダムプレイをオフにしてください。(19/23/47ページ)

MD/CD/External Disc mode

ディスクが順に演奏されない

マガジンランダムプレイがオンになっている。 → マガジンランダムプレイをオフにしてください。(47ページ)

CDがイジェクトできない

ディスクがイジェクト途中で止まっている。 → CD EJECTボタンをCDがイジェクトするまで押し続けてください。

タイトル表示に切り替えても “No Title” / “No Text” と表示される

ディスクタイトルやトラックタイトル、ディスクテキストが記録されていない。 → ディスクタイトルやトラックタイトル、ディスクテキストが記録されたディスクをプレイしてください。

文字がスクロールされない

● 情報文字数が12文字以下のため。
● ディスクネームを表示しているため。

● 表示部に情報文字がすべて表示されている場合は、表示が切り替わったときに1回スクロールされ、それ以後の繰り返しスクロールはされません。
● スクロール表示されるのはディスク/トラックタイトル、ディスク/トラックテキスト、ファイル/フォルダネーム、およびID3 Tag情報です。

ディスクサーチ/マガジンランダムプレイができない

ディスクが1枚しか入っていない。 → ディスクを2枚以上挿入してください。

リピートプレイ、スキャンプレイ、ランダムプレイがオフされない

ディスクを取り出さない限り、各機能は電源をオフにしても自動的にオフされません。 → 各機能をボタン操作でオフにするか、ディスクをイジェクトしてください。

CD-R、CD-RWがプレイできない

● ファイナライズ処理を行っていない。
● CD-R/CD-RWに未対応のCDチェンジャーでプレイしている。

● CDレコーダーでファイナライズ処理を行ってください。ファイナライズ処理については、お使いのCD-R/CD-RWライティングソフトやCD-R/CD-RWレコーダーの説明書をご覧ください。
● CD-R/CD-RW対応のCDチェンジャーでプレイしてください。

トラックサーチできない

最初のトラックで前の曲へ、最後のトラックで先の曲へトラックサーチしようとしている。 → ディスクリピート中などを除き、最初のトラックから最後のトラックへ、最後のトラックから最初のトラックへはトラックサーチできません。

ディスクが取り出せない

車両のACCスイッチをオフしてから10分以上経過したため。 → ACCスイッチをオフしてからディスクを取り出せるのは10分以内です。10分以上経過した場合は、再度ACCをオンにしてからイジェクトボタンを押してください。

MP3 Mode

MP3ディスク/MP3ファイルがプレイできない

● ISO9660 level1/2, Joliet, またはRomeoに準拠して記録されていない。
● MP3ファイルに拡張子が付いてない。
● ディスクに傷や汚れがある。

● ISO9660 level1/2, Joliet, またはRomeo (67ページ) に準拠したディスクを使用してください。
● MP3ファイルに拡張子 “.MP3” を付けてください。
● 「CDとMDの取り扱い」(12ページ) を見て、ディスクをクリーニングしてください。

MP3ファイルをプレイ中に音飛びする

ディスクに傷や汚れがある。 → 「CDとMDの取り扱い」(12ページ) を見て、ディスクをクリーニングしてください。

MP3ディスクをプレイ時に雑音が入る/音が出なくなる

MP3ファイル以外に拡張子が付いている。 → MP3ファイル以外に “.MP3” 拡張子は付けしないでください。

フォルダネーム/ファイルネームが正しく表示されない

● ISO9660 level1/2, Joliet, またはRomeoに準拠して記録されていない。
● ライティングソフトで扱えない文字を使用して記録した。

● ISO9660 level1/2, Joliet, またはRomeo (67ページ) に準拠したディスクを使用してください。
● ライティングソフトの取扱説明書を参照して使用できる文字で記録してください。

演奏時間表示が実際の演奏時間と一致しない

MP3ファイルの記録された状況により、演奏時間が一致しないことがあります。 → —

MP3ディスクをプレイするまで時間がかかる

ディスクに記録されているフォルダ/ファイル/階層が多い。 → 最初にディスク内のすべてのファイルをチェックするため、多くのファイルが記録されているディスクを使用すると、プレイされるまで長時間かかる場合があります。

MP3ファイルが順番どおりにプレイされない

プレイさせたい順番どおりにライティングソフトで書き込まれなかったため。 → ライティングソフトにより異なりますが、ファイル名の頭に “00” ~ “99” などと入力してから書き込むことで順番を設定できる場合があります。

MP3 File Control

ID 3 tag情報が表示されない

ファンクションセットの“ID3 Tag”項目が“Off”に設定されている。

ファンクションセットの“ID3 Tag”項目を“On”に設定してください。(42ページ)

ID 3 tag情報が正しく表示されない

- ID 3 tag v1.0/1.1に準拠して記録されていない。
- 漢字やひらがなを使用して記録した。

- ID 3 tag v1.0/1.1に準拠して記録してください。
- 本機は漢字やひらがなの情報は表示できません。

Name Set

DNPSができない

- MDをプレイしている。
- マガジンランダムがオンになっている。
- MP3ファイルをプレイしている。

- MDにDNPSはできません。
- マガジンランダムをオフにしてください。
- MP3が収録されたCDにDNPSはできません。

SNPS、DNPS表示にしても“No Name”と表示される

ステーションネーム、ディスクネームが登録されていない。

ステーションネーム、ディスクネームを登録してください。(26ページ)

登録したはずのステーションネームが消えた

- 31局目のステーションネームを登録した。
- 本機をバッテリーから外したため。

- 登録できるステーションネームは30局分です。
- 本機をバッテリーから外すとステーションネームは消去されます。

登録したはずのディスクネームが消えた

- 51枚目のディスクネームを登録した。
- 本機をバッテリーから外したため。

- 登録できるディスクネームは本機のCDプレーヤーとCDチェンジャーを合わせて50枚分です。
- 本機をバッテリーから外すとディスクネームは消去されます。

ディスクネームがまちがって表示される

総録音時間とトラック数が同じディスクがすでに登録されている。

識別する方法はありません。

“No Disc”と表示される

プレーヤーやマガジンにディスクが入っていない。

ディスクを入れてください。

Function Set

AT.SCRL項目が表示されない

- 使用しているディスクチェンジャーに“O-N”スイッチがない。
- 使用しているディスクチェンジャーの“O-N”スイッチを“O”にしている。

- “O-N”スイッチがあるディスクチェンジャーを使用してください。
- ディスクチェンジャーの“O-N”スイッチを“N”にしてください。

CODE STBY項目が表示されない

すでにセキュリティコードを設定してある。

セキュリティコードを一度設定すると変更はできません。このため、ファンクションセット項目から削除されます。

セキュリティコードを忘れた

セキュリティコードを調べることはできません。

ケンウッドサービスセンターにご相談ください。

Telephone Control

ハンズフリー機能が正しく動作しない

ファンクションセットの“TEL”項目が正しく設定されていない。

CA-HF100またはCA-HF200を使用しているときは“BUS”に設定し、CA-HF300を使用しているときは“Plug”に設定してください。(42ページ)

携帯電話のメモリーが読み込めない

携帯電話が正しく接続されていない。

一旦、携帯電話をCA-HF100/CA-HF200から取り外してから、携帯電話の電源をオフ、本機の電源をオンにして、CA-HF100/CA-HF200にロックするまで差し込んでください。

テレフォンモードにできない（インジケータが点灯しない/点滅する）

- 携帯電話が接続されていない。（インジケータが点灯しません）
- 携帯電話からメモリーダイヤルを読み込んでいない。
- メモリーダイヤルを消去した。
- 携帯電話に電話番号がメモリーされていないかつた。（インジケータが点滅します）

- 携帯電話の電源をオフ、本機の電源をオンにして、別売品のCA-HF100/CA-HF200に携帯電話がロックするまで差し込んでください。
- 「携帯電話メモリーダイヤル読み込み」(52ページ)を参照して、携帯電話のメモリーダイヤルを本機に読み込んでください。

Display/DSP/Equalizer Control

DSP効果が得られない

- 2スピーカーシステムになっている。
- フロントスピーカーとリアスピーカー、あるいは右スピーカーと左スピーカーが逆に接続されている。
- スピーカーの極性が逆に接続されている。
- フェダーまたはバランスの調整が片側に片寄っている。
- 4スピーカーシステムにしてください。
- 取付説明書を参照して正しく接続し直してください。
- フェダーやバランスを中央に調整してください。(38ページ)

レベル、DSPバスブーストが調整できない

- ホールシミュレーション設定が“Bypass”に設定されている。
- ホールシミュレーション設定を“Bypass”以外に設定してください。(32ページ)

ルームサイズの調整ができない

- ポジションが“ALL”に設定されている。
- ポジションを“ALL”以外に設定してください。(32ページ)

イコライザーを調整しても効果が現れない

- 1つの周波数だけを調整している。
- 調整した周波数の周囲の周波数も調整してください。

スピーカの切り替えができない

- ALL OFFモードになっている。
- SOURCEボタンを押して、オーディオソースに切り替えてからスピーカの切り替えをしてください。

イルミネーション色を調整できない/調整しても変わらない

- いずれかの2色を“0”に設定しているため。
- イルミネーションの調整は、2種類以上の色を混ぜることによって変化します。このため、最低2種類の色を“1”以上に設定しないと変化しません。

本機は、MP3ファイルをプレイすることができますが、使用できるMP3ファイルを記録したメディアやフォーマットには制限があります。MP3ファイルを書き込むときには以下のことに注意してください。

使用できるメディア

使用できるMP3が収録されているメディアはCD-ROM、CD-R、およびCD-RWです。

使用できるディスクのフォーマット

本機で使用するディスクは、以下のフォーマットです。フォーマット名の後ろの文字数は、ファイル名に付けられる最大文字数（区切り文字“.”と拡張子3文字を含む）です。

- ISO 9660 Level 1：12文字
- ISO 9660 Level 2：31文字
- Joliet：64文字（ただし、本機で表示されるのは12文字（8.3）形式です）
- Romeo：128文字

なお、ロングファイル名形式で書き込んだ場合は、200文字まで表示が可能です。

使用できる文字はライティングソフトの説明書および下記「ファイル名とフォルダ名の入力」を参照してください。

ただし、本機で再生できるディスクには以下の制限があります。

- 最大ディレクトリ階層：8階層
- 1階層における最大ファイル/フォルダ数：253（ファイル数+フォルダ数）

上記のフォーマット以外で書き込まれたMP3ファイルは、正常にプレイされなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されない場合があります。

圧縮ソフトとライティングソフトの設定

MP3ファイルに圧縮するときには、圧縮ソフトの転送ビットレートの設定は“128kbps”の“固定”を推奨します。また、最大容量まで記録する場合は、追記禁止の設定をしてください。

何も記録されていないメディアに一度で最大容量まで記録する場合は、“Disc at Once”の設定をしてください。

ファイル名とフォルダ名の入力

ファイル名とフォルダ名は、半角英数字またはカナ文字で入力してください。これ以外の文字で入力されているファイル名とフォルダ名は正常に表示されません。ライティングソフトによっても正常に表示できない場合があります。

また、MP3ファイルと認識されてプレイされるファイルはMP3の拡張子（.MP3）が付いたものだけです。MP3ファイルには、MP3の拡張子を付けて保存してください。



禁止

MP3ファイル以外のファイルに、MP3の拡張子を付けると、MP3ファイルと誤認識して再生をしてしまい、大きな雑音が出てスピーカーなどを破損する恐れがあります。MP3ファイル以外のファイルに、MP3の拡張子を付けないようにしてください。

ID3 Tagについて

本機で表示できるID3 TagはID3 Tag v1.0/1.1規格で記録されたタイトル、アーティスト、およびアルバム名です。また、表示できる文字種は英数文字、半角カタカナです。漢字、ひらがな、および全角カタカナは正しく表示されません。

なお、ID3 tag v1.0/1.1規格には以下の制限があります。

- タイトル：30 byte以下
- アーティスト：30 byte以下
- アルバム名：30 byte以下

メディアに書き込むファイルについて

MP3が収録されているメディアを挿入すると、最初にディスク内のすべてのファイルをチェックします。このため、プレイするメディアに多くのフォルダやMP3以外のファイルを書き込むと、プレイするまで長時間必要になります。また、次のMP3ファイルのプレイに移るまで時間がかかったり、ファイルサーチやフォルダサーチがスムーズに行えない場合があります。

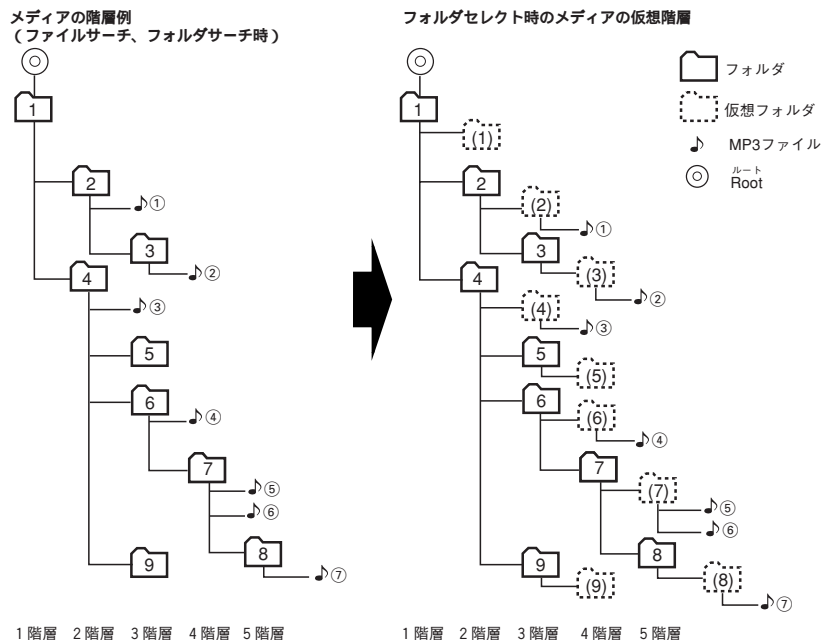
使用するメディアには、MP3ファイル以外のファイルや必要ないフォルダなどを書き込まないようにしてください。

MP3ファイルをプレイする順番

プレイ、フォルダサーチ、ファイルサーチ、およびフォルダセレクトでファイルやフォルダが選択される順番は、ライティングソフトで書き込まれた順番になります。このため、プレイされると予想していた順番と実際にプレイされる順番が一致しないことがあります。

ライティングソフトにもよりますが、“01”～“99”などとファイル名の頭にプレイする順番を入力してからCD-Rなどに書き込むことで、プレイする順番を設定できることがあります。

以下のようなフォルダ・ファイル階層のメディアでフォルダサーチ、ファイルサーチ、およびフォルダセレクトを行った場合は次のようになります。



♪④ 再生中にファイルサーチを行うと・・・

ボタン操作 現在の ファイルNo.		
♪④	♪④の先頭 → ♪③ → ♪② → ♪① → ♪⑦...	♪⑤ → ♪⑥ → ♪⑦ → ♪①...

♪④ 再生中にフォルダサーチを行うと・・・

♪④を再生中にフォルダサーチをすると、最初は[6]から始まり、次のようにフォルダを選びます。

ボタン操作 現在の フォルダNo.		
[6]	[5] → [4] → [3] → [2] → [1] → [9]...	[7] → [8] → [9] → [1]...

♪③ 再生中にフォルダセレクトを選択し、フォルダの移動を行うと・・・

フォルダセレクト中は前ページのように、各フォルダの1階層下に仮想フォルダを設けます。各フォルダに記録してあるMP3ファイルはこの仮想フォルダに収録されているような階層表示となります。

♪③を再生中にフォルダセレクトモードにすると、最初は[4] ([2]の仮想フォルダ)から始まり、次のようにフォルダを選びます。

- 仮想フォルダのフォルダネームは、本来のフォルダネームに“()”を付けて表示します。例えば、“4”というフォルダネームであれば“(4)”と表示します。また、仮想フォルダのフォルダネーム表示は30文字までとなります。

ボタン操作 現在の フォルダNo.				
[4]	[9] → [6] → [5] → [4]...	[5] → [6] → [9]...	[4] → [1]	—

- フォルダ内では下に階層がないため の操作はできません。
- このため、上記の例のようにフォルダセレクトモードになった直後は [4] の下に階層がないため の操作はできません。
- フォルダセレクト機能により [1] などへ移動したときに、 の操作で [1] → [1] と1階層下のフォルダを選ぶことができます。

AMP Cont

(アンプコントロール)

EXT.CONT.コードで接続した別売品のB.M.S機能搭載パワーアンプの、低音域の増幅量をこの機能でコントロールできます。

変更される値や変更時のアンプ側の動作はアンプにより異なります。詳しくは接続しているパワーアンプに付属の取扱説明書をご覧ください。

B.M.S機能搭載アンプ (2001年3月31日現在)
: KAC-PS501F, KAC-PS301T, KAC-PS201T

AMP MUTE

(アンプミュート)

フロントスピーカー、リアスピーカーともプリアウト端子にパワーアンプを接続してシステムを組んでいるようなときは、この機能を“On”に設定することにより、内蔵アンプの稼働を停止させることができます。

内蔵アンプの稼働を停止させると、プリアウトからの音声出力のクオリティをアップさせることができます。

AT.SCRL

(オートスクロール)

ディスクタイトルやCDテキストが長い場合ディスプレイ部分では表示しきれないときはスクロールして表示されます。

この機能を“On”に設定しておくと、このスクロール表示を繰り返し行い、“Off”に設定しておくと表示が変わったときだけ1回スクロール表示することができます。設定はCDプレイ時とMDプレイ時とで別々に設定できます。

AUX

(エーユーエックス)

テレビなどの外部機器の出力を入力する機能です。AUX端子から入力された音は、AUXソースに切り替えることにより、本システムを使って聴くことができます。

ファンクションセットで“AUX”項目を“On”に設定すると、ソース選択時にAUXモードに切り替わるようになり、この機能が使えるようになります。

BEEP

(ビープ)

ボタンを押したときに、押されたことが確認できるように“ビップ”音がする機能です。押してすぐ離れたときには“ビップ”と鳴り、1秒以上または2秒以上押して機能をオンにしたときには“ビッピップ”と鳴ります。うるさく感じたときには“Off”に設定することにより消すことができます。

DSP

(ディエスピ: デジタルシグナルプロセッサ)

音楽信号をデジタル処理することにより、反射音や残響音などの音響効果を作り出し、擬似的にコンサートホールなどの音場空間を作る機能です。

V-Color

(バリアブルカラー)

ディスプレイのカラーモードを設定します。

Sync: ボリューム調節中、アッテネーターオン中、電話の着信中にディスプレイの色が次々に変わります。

Fix: ディスプレイの色が設定した色に固定されます。

HPF Slope

(ハイパスフィルタースロープ)

HPF-F/HPF-Rで設定した帯域の音をカットするときの減衰量を設定する機能です。

1オクターブあたりの減衰量をdBで設定します。スピーカーに応じたスロープ設定により、特に超低域をカットすることにより、音にならない不要な振動を抑制できます。

HPF-F/HPF-R

(フロントハイパスフィルター/リアハイパスフィルター)

サブウーファーを追加するとき、この機能を使って高・中音用のスピーカーから低音を削除することができます。

設定した周波数より低い音域をカットします。“Off”に設定すると、この機能を無効にすることができます。

LPF

(ローパスフィルター)

ノンフェーダー出力から高音を削除することができます。ノンフェーダー出力をサブウーファー用として使用するとき、この機能で低域のみの音にすることができます。

設定した周波数より高い音域をカットします。これにより効率の良い低域再生が可能となります。“Off”に設定すると、この機能を無効にすることができます。

LPF Slope

(ローパスフィルタースロープ設定)

LPFで設定した帯域の音をカットするときの減衰量を設定する機能です。

1オクターブあたりの減衰量をdBで設定します。

MDLP

(エムディエルピー)

MDの記録方式の規格です。

本機ではMDLP2モードとMDLP4モードで録音されたMDをプレイできます。

MONO

(モノラル)

この機能でFMステレオ放送をモノラル音声にすることができます。

受信状態の悪いFM放送局を聴いているときに、音声をモノラルにすると雑音が軽減されて聞き易くなる場合があります。

MP3

(エムピスリー)

正式名「MPEG1 Audio Layer 3」の略称です。MPEG AudioはDVDやVideo CDなどに使用されている画像圧縮方法のオーディオ部分のみの圧縮規格です。

本機にMP3が収録されたメディアを入れることにより聴くことができます。

使用できるMP3収録メディアの種類やフォーマットなどは「Help? MP3」(67ページ)をご覧ください。

MP3 ID3 Tag

(エムピスリーアイディスリータグ)

MP3ファイルの情報データです。曲のタイトルやアーティスト名、収録アルバム名などが記録されています。

本機では「ファンクションセット」(42ページ)の“ID3 Tag”項目を“On”に設定すると、タイトル、アーティスト、またはアルバム名の情報を表示することができます。詳しくは「Help? MP3」(67ページ)をご覧ください。

Opening

(オープニング)

電源をオンにしたときの、デモンストレーション表示の有無を設定できます。

Preout

(プリアウト)

リアプリアウトを、オーディオコントロールのフェーダー調整に影響されない出力(ノンフェーダー出力“N-F”)に切り替えることができます。フェーダー調整に影響されないのサブウーファー用の出力に活用できます。

Seek

(シーク)

放送局の探し方を設定することができます。

Auto 1: 放送局を自動的に見つけ出します。

Auto 2: メモリーされている放送局を順番に受信します。

Manual: 1ステップずつ周波数が変わります。

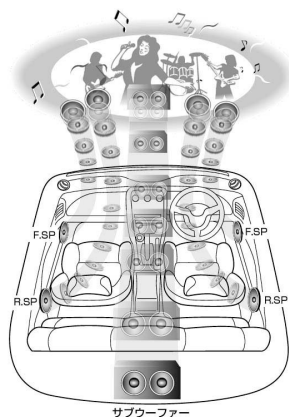
T-DLY F/T-DLY R/T-DLY NF

(フロントタイムディレイコントロール/
リアタイムディレイコントロール
/ノンフェーダータイムディレイコントロール)

フロント、リア、ノンフェーダーから出力される音を
遅延させることにより、スピーカーの位置を擬似的
にずらすことができる機能です。それぞれ細かい設
定が可能のため、車種やスピーカー取り付け位置に
とわらずに最適な効果が得られます。

T-DLY Fの設定値 (msec.) を上げていくと、音像が
前方奥に引き込み、広がり感が得られます。

T-DLY RやT-DLY NFの設定値 (msec.) を上げてい
くと、前方定位 (ばらけていた音が前方でまとまり、
目の前で鳴っているような感覚) や低音感増強、臨
場感の向上などの効果が得られ、リアスピーカー/サ
ブウーファの音集性が向上します。



サブウーファー

TEL

(テレフォン)

本機に携帯電話を接続してハンズフリー機能を使う
ときに、その接続方式に合わせた設定をします。

BUS : 別売品CA-HF100またはCA-HF200を使用して
携帯電話を接続している場合

Plug : 別売品CA-HF300を使用して携帯電話を接続
している場合

上記の設定で使用できる機能やファンクションセッ
トで設定できる項目が変わります。

なお、上記の設定が正しく行われていないと、ハン
ズフリー機能は正しく動作しません。

セキュリティコード

セキュリティコードを設定しておく、本機の電源
コードを外したときやリセットボタンを押したとき
などの、次に初めて使うときは、設定したセキュリ
ティコードを入力しないと電源がオンできないよう
になります。すなわち、本機を車両から外したとき
は、セキュリティコードの入力が必要になるため、
盗難防止の手助けとなります。

ディスクチェンジャー

外部接続された別売品のCDチェンジャー (KDC-
C510など)、MDチェンジャー (KMD-C30, RJ-480
など) です。

無効な操作を以下のように表示してお知らせします。

- Error 04** : ●ディスクが異常に汚れている。
●ディスクが裏返しになっている。
●ディスクに傷が多く付いている。
●ディスクが入っていない。
●トレイが入っていない。
⇒ほかのディスクを使用してください。
- Error 12** : 演奏しようとしたMDがデータ用MDです。
⇒データ用MDを取り出して、音楽用MDを入れてください。
- EJECT** : ●ディスクマガジンがセットされていない。
●ディスクマガジンが完全に入っていない。
など
- No Disc** : ディスクマガジンにディスクが1枚も入っていない。
- No Name** : ●ステーションネームプリセットされていない放送局を受信中に、放送局名表示にしようとした。
●ディスクネームプリセットされていないディスクを演奏中に、ディスク名表示にしようとした。
●ID3 Tagが記録されていないMP3ファイルを再生中に、ID3 Tagの表示にしようとした。
- No Title** : タイトルが記録されていないMDを演奏中に、ディスクタイトルやトラックタイトル表示にしようとした。
- No Text** : CDテキストが記録されていないCDを演奏中に、ディスクタイトルやトラックタイトル表示にしようとした。
- No Track** : 演奏しようとしたMDに何も録音されていない。
⇒ほかのディスクを使用してください。
- Blank Disc** : 演奏しようとしたMDにデータが1つも記録されていない。
⇒ほかのディスクを使用してください。
- 点滅 (点滅) / TEL No Memo** : 本機に電話番号がメモリーされていない。
⇒「携帯電話メモリー読み込み」(52ページ) を参照して、携帯電話のメモリーダイヤルを本機に読み込んでください。
- Please Close** : 操作パネルを開いているときに、操作できないボタンを押した。
⇒パネルを閉めてから操作してください。

システムの異常を以下のように表示してお知らせします。

- Error 77** : 何らかの原因で正常に動作していない。
⇒本機のリセットボタンを押してください。"Error 77"の表示が消えない場合、お近くのケンウッドサービス窓口へご相談ください。
- H-HOLD** : 本機のMDプレーヤーやディスクチェンジャーの内部温度が 60℃以上になると保護回路が働き、動作しなくなることがあります。このときこの表示が出ます。
⇒本機またはディスクチェンジャーの取り付け場所の温度を下げてから使用してください。
- Mecha Error** : ●ディスクマガジンに異常がある。
⇒ディスクマガジンを取り出して、ディスクマガジン内を確認してください。
●何らかの原因で正常に動作していない。
⇒イジェクトボタンを押してください。イジェクトボタンを押しても表示が消えないときは本機のリセットボタンを押してください。なお、表示が消えない場合、お近くのケンウッドサービス窓口へご相談ください。
- 点滅 (点滅)** : CDプレーヤーが正常に動作していない。
⇒CDを取り出してから、CDを入れなおしてください。
- 点滅 (点滅)** : MDプレーヤーが正常に動作していない。
⇒MDを取り出してから、MDを入れなおしてください。

保証とアフターサービス

保証について

●保証書

この製品には、保証書を別途添付しております。
保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

●保証期間

お買い上げの日より**1年**です。

修理を依頼されるときは

「Help ? Operation」を参照してお調べください。それでも異常があるときは、製品の電源をオフにして、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンター、サービスステーション、営業所にお問い合わせください。（別紙「ケンウッド全国サービス網」をご参照ください。）

修理に出された場合は、お客様が登録、設定したメモリー内容がすべて消去されることがあります。あらかじめご了承ください。

●保証期間中は…

保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンター、サービスステーション、営業所が修理させていただきます。ご依頼の際は保証書をご提示ください。

本機以外の原因（衝撃や水分、異物の混入など）による故障の場合は、保証対象外になります。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後は…

お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンター、サービスステーション、営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様の要望により有料にて修理いたします。

補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後**6年**です。
（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

●持込修理

この製品は持込修理とさせていただきます。

- 本機をお持ちになるときは、接続しているユニットも一緒にお持ちください。
（本機および一緒に持ち込まれるユニット内のディスクやテープはあらかじめ取り出してください。）
- 製品を修理に持ち込まれる際は、輸送中に傷が付くのを防ぐため、包装してください。

●修理料金のしくみ（有料修理の場合は、つぎの料金が必要です。）

- 技術料：故障した製品を正常な状態に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定器等設備費、一般管理費等が含まれます。
- 部品代：修理に使用した部品代です。
その他修理に付帯する部材等を含む場合があります。

なお、アフターサービスについてご不明な点は、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンター、サービスステーション、営業所にご遠慮なくお問い合わせください。

仕様一覧

FMチューナー部

受信周波数範囲（周波数ステップ）	76.0 MHz～90.0 MHz (100 kHz)
実用感度（S/N:30 dB）	9.3 dBf (0.8 μ V/75 Ω)
S/N 50 dB感度	15.2 dBf (1.6 μ V/75 Ω)
周波数特性（ ± 3.0 dB）	30 Hz～15 kHz
S/N比	75 dB (MONO)
選択度（ ± 400 kHz）	80 dB以上
ステレオセパレーション	40 dB (1 kHz)

AMチューナー部

受信周波数範囲（周波数ステップ）	522 kHz～1629 kHz (9 kHz)
感度	28 dB μ

MDプレーヤー部

レーザー 回転数	GaAlAs(ダブルヘテロダイオード, $\lambda=780$ nm)
ワウ & フラッター	400～900 rpm（線速度一定）
周波数特性	測定限界以下
高調波歪率	20 Hz～20 kHz (± 1 dB)
S/N比	0.005 % (1 kHz)
ダイナミックレンジ	93 dB (1 kHz)
ステレオセパレーション	93 dB
	85 dB

CDプレーヤー部

レーザー 回転数	GaAlAs(ダブルヘテロダイオード, $\lambda=780$ nm)
ワウ & フラッター	500～200 rpm（線速度一定）
周波数特性	測定限界以下
高調波歪率	10 Hz～20 kHz (± 1 dB)
S/N比	0.01 % (1 kHz)
ダイナミックレンジ	95 dB (1 kHz)
ステレオセパレーション	95 dB
MP3デコーダ	88 dB
	MPEG-1.0 Audio Layer-3準拠

オーディオ部

最大出力	50 W \times 4
定格出力	30 W \times 4 (4 Ω , 1 kHz, 10%THD)
ブリアウトレベル (FM)	1.5 V/10 k Ω
ブリアウトインピーダンス	600 Ω 以下

DSP/イコライザー部

A/Dコンバーター & D/Aコンバーター	3次 $\Delta\Sigma$ 方式20bit128倍オーバーサンプリング
イコライザー中心周波数	60/120/250/500/1k/2k/4k/8k/16k Hz
可変範囲	± 12 dB (± 6 STEP)

電源部

電源電圧	14.4 V (11～16 V)
最大消費電流	10 A

寸法・質量

埋込寸法 (W \times H \times D)	178 \times 100 \times 155 mm
質量 (重さ)	3.3 kg

付属部品

電源ハーネス	1本
トラスネジ (M5 \times 6mm)	6本
サラネジ (M5 \times 7mm)	6本
セムスネジ (M4 \times 8mm)	1本
リモコン	1個
電池 (単4型)	2本

※これらの仕様およびデザインは、技術開発にともない予告なく変更になる場合があります。